明日をひらく地域活性化のための情報誌

地域づくり 本編

2018
5
ISSN 1340-8917



平成29年度ふるさとイベント大賞

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

地域づくり　2018-5

CONTENTS

1　巻頭エッセー／「県民幸福度日本一」の福岡県を目指して　小川　洋（福岡県知事）

特　集　平成29年度 ふるさとイベント大賞

平成29年度ふるさとづくり大賞・第22回ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞表彰式の開催　2
第22回ふるさとイベント大賞表彰式　3
大賞（内閣総理大臣賞）＜１団体＞　●刈谷万燈祭【愛知県刈谷市】　4
最優秀賞（総務大臣表彰）＜１団体＞　●ゲレンデ逆走マラソン【福島県猪苗代町】　6
ふるさとキラリ賞＜２団体＞　●八戸工場大学【青森県八戸市】　8　●木頭杉一本乗り大会【徳島県那賀町】　10
優秀賞＜３団体＞　●城下町しばた全国雑煮合戦【新潟県新発田市】　12　●飯塚新人音楽コンクール【福岡県飯塚市】　13
●日向ひょっとこ夏祭り【宮崎県日向市】　14
選考委員特別賞＜１団体＞　●潮来の嫁入り舟【茨城県潮来市】　15

【特集編では大賞・最優秀賞ほか、全30表彰を全て紹介～特集編のみに掲載される表彰は以下の通り】
●次点：ふるさと百餅祭り【北海道岩見沢市】、市場で朝めし。2016【宮城県気仙沼市】、マタギの里 小玉川雪まつり【山形県小国町】、吉川八坂祭り【埼玉県吉川市】、古利根川 流灯まつり【埼玉県杉戸町】、越後・謙信 SAKEまつり2016【新潟県上越市】、能登小木港 イカす会 2017【石川県能登町】、和田de路地祭【福井県高浜町】、宿場町のクラフトフェア・木曽の手仕事市【長野県木曽郡木曽町】、高山城 戦国合戦まつり【岐阜県土岐市】、中山道灯り路【滋賀県東近江市】、竹の径・かぐやの夕べ【京都府向日市】、城東区SARUGAKU祭 ～こどももおとなも全員集合!! ～【大阪市城東区】、オータムフェスティバル in 龍野【兵庫県たつの市】、古都飛鳥文化祭【奈良県明日香村】、2016第5回益田 INAKAライド【島根県益田市】、矢掛の宿場まつり 大名行列【岡山県小田郡矢掛町】、餅ひろい 世界選手権【山口県山口市】、第21回 宇佐大鍋まつり【高知県土佐市】、2016国際渓流滝登り in ななやま【佐賀県唐津市】、五島の灯まつり【長崎県新上五島町】、職人フェスティバル【大分県中津市】

レギュラーリポート

16　平成 29 年度地方創生フォーラム in 東京
「木づかい」から地方創生を学ぶ

18　移住・定住・交流推進支援事業　熊本県あらたま地域
「婚活」で集客、
各種事業と連携して交流人口創出　柳原志保

20　海外調査報告　イギリス・ロンドン
BID 制度と中心市街地活性化

21　海外調査報告　オランダ・ユトレヒト市
学校・地域・家庭の連携による地域づくり

22　国内調査報告　北海道長沼町
「農業と食のまち」として地域をプロデュース

24　書籍紹介

25　平成 29 年度土日集中セミナー
民間の資金とノウハウを生かす新たな官民連携

26　地方創生へ一ウッドスタート宣言　岐阜県大野町
子育て環境から「木育」を　鈴村美樹

27　広報室だより　松下政経塾
社会起業を通じて地域をつくる

28　首長の思い
市民総参加型のまちづくり
豊岡武士（三島市長）

グラビア
表3　手前みそですが…　【香川県三豊市】

表紙　龍馬に大接近

（高知県高知市）

高知市を代表する観光名所である桂浜は、松林の濃緑と砂浜の五色の小砂利、紺碧の太平洋と白波が箱庭のように調和した美しい浜です。よさこい節にも「月の名所は桂浜」と歌われているほど月の名所として有名ですが、朝日百選や日本の渚百選にも選ばれています。

そんな桂浜の見どころの一つが、袴にブーツを履き、懐手で太平洋を眺める総高13・5㍍の坂本龍馬像です。

いつもは下から見上げることしかできない龍馬像ですが、現在開催中のイベント「龍馬に大接近」では、隣に設置した特設展望台から横顔を見ることができます。下から仰ぎ見る龍馬像は大変凛々しいお顔ですが、横顔は不思議と優しいお顔に見えます。そして、龍馬と同じ目線で太平洋を眺めることができます。龍馬が太平洋の先に何を見たのか、是非体感してください。

「龍馬に大接近」は平成30年6月3日（日）までの開催です。

問合せ先＝（公社）高知市観光協会
（088・823・4016）
（写真提供＝（公社）高知市観光協会）



龍馬に大接近

ESSAY

巻頭エッセー

「県民幸福度日本一」の福岡県を目指して



福岡県知事 ● 小川　洋

平成29年7月に発生した九州北部豪雨では、発災直後から、人命救助などの応急対応、被災地の皆さまの生活再建支援、道路、河川、農地の災害復旧などの対応に当たる過程で、全国の皆さんから温かいご支援をいただきました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

福岡県は、現在、人口増加を維持しているものの、近い将来、人口減少に転ずることが予測されており、それぞれの地域をいかに元気にしていくか、地方創生は極めて重要な課題です。こうしたことから、「誰もが住み慣れたところで働き、安心して子どもを産み育て、長く元気に暮らしていくことができる」、そうした地域社会をそれぞれの地域に作っていく地方創生の実現に向けた取り組みを加速していきます。また、私は、福岡県を「太平洋側でない、日本海側のアジアを向いた一大拠点」として成長させ、わが国のバランスのとれた発展に貢献していきたいと考えています。

昨年、本県に入国した外国人は３１９万人、入港した外国籍クルーズ船は３３０隻を超え、いずれも過去最高を記録しました。一昨年の「明治日本の産業革命遺産」に続き、昨年は「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」がユネスコの世界文化遺産に登録されました。今年11月には「伝統的工芸品月間国民会議全国大会」が30年ぶりに本県で開催されます。これらの資産や交流の機会を捉え、国内外から多くの人々が活発に行き交い、観光を大いに楽しむことができる福岡県を目指してまいります。

スタートして6年間取り組んでいる「グリーンアジア国際戦略総合特区」では、設備投資が１７００億円を超え、１２００人を超える新規雇用が生まれました。また、雇用の８割を担い、本県の発展の原動力である中小企業をきめ細かく支援するとともに、自動車、バイオ、ロボット、水素エネルギー、ＩｏＴなど先端成長産業の育成に取り組み、県内に魅力ある雇用の場を創出してまいります。

また、本県は数多くの県産ブランドを持つ農林水産業県です。本格販売開始から15周年を迎えたイチゴの「あまおう」が、昨年度、販売単価13年連続日本一を達成しました。今年は、県産農林水産物の首都圏での販売拡大のため、新たに「福岡の食」を提供するアンテナレストランを東京にオープンします。海外では、香港、タイにおいて、本県の農産物、水産物、お酒などのキャンペーンを実施するほか、英国、フランス、ドイツでは、お茶の専門店に八女茶の常設コーナーを設置するなど、農林水産物の輸出促進も強化していきます。このような取り組みを通じ、大事な農林水産業をしっかり守っていくと同時に、「攻め」の産業を目指します。

さらには、地方創生の実現を目指したさまざまな取り組みを進める中で、特に、スポーツを振興し、福岡県をもっと元気にする「スポーツ立県」を目指してまいります。スポーツは、体力の向上、健康の維持増進、生きがいなど人々を元気にする力を持っており、人々に元気や感動を、とりわけ、子どもたちに夢や希望を与えてくれるものです。ラグビーワールドカップ２０１９、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会といった大規模国際スポーツ大会を契機とした地域の活性化、ジュニアアスリートの育成など競技スポーツの強化、健常者も障がいのある方も、誰もがスポーツに親しむことができる環境の整備に取り組んでまいります。

これまで私は、福岡県に生まれてよかった、生活してよかったと実感できる「県民幸福度日本一」の福岡県を目指してきました。これからも、県民一人一人が幸福を実感できるよう、本県をもっと元気にする施策をさらに伸ばしていき、一方で、生活者の視点を重視しながら、課題や問題を抱える県民の皆さまに寄り添う、温かみのある行政に一層力を入れてまいります。

平成 29 年度ふるさとづくり大賞・第 22 回ふるさとイベント大賞
内閣総理大臣賞表彰式の開催

平成 30 年 3 月 9 日（金）に首相官邸にて、「平成 29 年度ふるさとづくり大賞」及び「第 22 回ふるさとイベント大賞」の内閣総理大臣賞表彰式が開催されました。

表彰式では、安倍晋三内閣総理大臣が受賞者の地域づくり活動の業績を讃えた上で、「皆様の活動は、正に日本人の心のよりどころ、ふるさとの価値を再認識し、次の世代につなげていく取り組みです。皆様のふるさとへの熱い思い、そして、地域に根ざした活動を地道に続けてこられた努力に心から敬意を表します。ふるさとを愛する気持ちを育み、誇りあるふるさとをつくる、この精神こそ魅力ある地方を創生する力の源泉であると思います」と述べられました。その後、安倍首相から受賞者の特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク（ふるさとづくり大賞・宮城県石巻市）、刈谷万燈保存会（ふるさとイベント大賞・愛知県刈谷市）に表彰状と記念楯が授与されました。



平成 29 年度ふるさとづくり大賞
特定非営利法人石巻復興支援ネットワーク
（宮城県石巻市）



第 22 回ふるさとイベント大賞
刈谷万燈祭・刈谷万燈保存会
（愛知県刈谷市）



特定非営利法人石巻復興支援ネットワークへの表彰状授与



刈谷万燈保存会への表彰状授与

第 22 回ふるさとイベント大賞表彰式・平成 29 年度地方創生フォーラム in 東京を開催

地域活性化センターでは、例年３月上旬に「ふるさとイベント大賞表彰式」と「地方創生フォーラム」を開催しています。今年度は、平成 30 年３月１日（木）にベルサール飯田橋ファーストにて開催し、303 人の皆様にご参加いただきました。ご来賓に奥野信亮総務副大臣にご臨席頂きました。また、北川フラム選考委員長、角田光代選考委員にご登壇いただき、表彰と総評をいただきました。



受賞者の皆さん


奥野総務副大臣のご挨拶


総評を述べる北川委員長と角田委員

■プログラム

13：00～　第 22 回ふるさとイベント大賞　表彰式
14：10～　平成 29 年度地方創生フォーラム in 東京（本誌 16 ～ 17P に詳報）
【基調講演①】「日本の森と暮らしをつなぐ」
涌井　雅之　氏（東京都市大学特別教授・造園家・岐阜県立森林文化アカデミー学長）
【基調講演②】「『コンクリートの時代』から『木の時代』へ」
隈　　研吾　氏（建築家・東京大学教授）
【事例発表①】「あの日を忘れずともに未来へ～東松島一心～東日本大震災の対応と木を活かした復興まちづくりについて」
阿部　秀保　氏（前宮城県東松島市長）
【事例発表②】「木材利用を通じた原産地と消費地との連携」
福田　紀彦　氏（神奈川県川崎市長）

選考委員長の総評　北川 フラム氏　アートディレクター　株式会社アートフロントギャラリー代表取締役

photo Junya Ikeda



今回の受賞イベントについては、とにかくユニークなものがよくこれだけあって、それを担う人々の熱意が伝わってきたということに尽きると思います。

大賞の刈谷万燈祭では竹と和紙で作られた高さ５メートル、重さ 60 キロの張子人形を一人でかついで踊るというものですし、最優秀賞のゲレンデ逆走マラソンは文字通りゲレンデを下から駆け上がるという思いもよらないもので、城下町しばた全国雑煮合戦、日向ひょっとこ夏祭り、八戸工場大学、木頭杉一本乗り大会等もユニークなものでした。地域を愛する人たちの創意工夫を知ると、地域の力もなかなかなものだと嬉しくなり、そんななかでも飯塚新人音楽コンクールの手がたい運営や、潮来の嫁入り舟の夫婦応募数の多さには敬意をもちました。地域は元気だぞと思います。







評価のポイント

●200年以上の歴史と伝統があり、天下の奇祭とよばれる独特な祭りである。
●「万燈」とよばれる張子人形は竹と和紙でつくられており、5メートルほどの大作を1人で担ぎ舞い踊るという貴重で伝統的な祭りであり、町会ごとに万燈が製作され、官民一体となって祭りを盛り上げている。
●観客数は2日間で10万人以上と多くの人を魅了している。
●市内の小学校で、万燈祭を教材で取り上げ、万燈祭の歴史を学ぶ機会を創出するなど、次世代への伝統文化継承に取り組んでいる点が評価できる。
●「万燈」の製作を通じて、伝統技術を継承し、地域住民の連帯の強さを感じる。
●氏子7町や地元企業も一体となって祭りを盛り上げている。
●毎年新作がつくられ、東京や大阪などへ出演し、市内外へも積極的に発信している。

次回開催日程

■開催日：平成30年7月28日（土）、29日（日）　■開催場所：刈谷市中心部（秋葉社周辺）
■問い合わせ先：
・団 体 名　刈谷市観光協会
・住　　所　〒448-8501　愛知県刈谷市東陽町1丁目1番地
・電話番号　0566-23-4100　・URL　http://www.kariya-guide.com/

大賞

第22回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

刈谷万燈祭





【由来】
愛知県の無形民俗文化財に指定されている「万燈祭」は、刈谷市銀座にある秋葉社の祭礼で、江戸時代中期から二百有余年続く、火難防除と町内安全を祈願するお祭りです。
宝暦6年（1756年）に火伏せの神をまつる秋葉堂（現：秋葉社）が建立され、その翌年から祭礼が行われました。安永7年（1778年）には笛や太鼓にあわせて「万燈（まんど）」が登場し、昭和の初期頃からは「万燈祭」と称され現在まで引き継がれています。

【万燈とは】
万燈は、竹と和紙で作られた張子人形を色鮮やかに彩色したもので、多くは歌舞伎絵や武者をかたどっています。大きなものは高さ約5メートル、幅約3メートル、重さは約60キロにもなり、これを若衆が一人ずつ交替で担ぎ、笛や太鼓のお囃子に合わせて舞い踊ります。各町の大万燈は、毎年新作が製作されます。何カ月も前から各町内の人々が製作に携わり、どれも力作揃いです。遠くから見ても、近くから見ても、迫力と緻密さが感じられます。

【お祭】
現在の祭礼は、7月最終土曜日と翌日の日曜日の2日間開催され、初日を「新楽（しんがく）」、2日目を「本楽（ほんがく）」と呼んでいます。新楽は、氏子7町（銀座、司町、新栄町、寺横町、東陽町、広小路、広小路五組）に加え、市内の企業や地区も参加し、十数基の大万燈と多数の子ども万燈が市内を練り歩き盛大に行われます。また、本楽では氏子7町の万燈が秋葉社の境内で舞を奉納する神前舞も披露されます。
氏子7町に加え、地域の住民と地元企業が連携し、総勢約2000人が祭りに参加しています。また、毎年、市内外から2日間でおよそ10万人の来場者があります。
県外のイベントにも出演しており、平成11年には「天皇陛下御即位十年をお祝いする国民祭典」、平成21年には「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典」、平成29年1月には「ふるさと祭り東京」、平成29年5月には「‘17食博覧会・大阪」に出演しました。

主催者メッセージ



日が沈み、色鮮やかな万燈に火が灯り、真夏の宵闇に浮かび上がる万燈が舞い踊る様は実に勇壮で、まさに天下の奇祭と呼ぶにふさわしいお祭りです。新楽に行われる「一斉舞」では、約20基の万燈が一堂に集まり華やかに行われ、本楽に行われる「神前舞」は、厳かに披露され、見る人の心を魅了します。

刈谷万燈保存会
会長
加藤 繁則さん

開催DATA

自治体名	愛知県刈谷市
自治体人口	約15万人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	刈谷万燈保存会、刈谷市観光協会
開催回数	—
開催日	7月最終土曜日とその翌日
開催場所	刈谷市中心部（秋葉社周辺）
観客数	118,000人（平成29年実績）







評価のポイント

●東日本大震災以降のスキー客離れの中、スキーリゾートの賑わいを取り戻そうと始まった、オフ期のゲレンデをつかったユニークなイベントである。
●スキー場のゲレンデを下から駆け上がるのは、奇抜でありながら創意工夫が顕著である。
●地域資源をうまく活用しており、1カ所だけでなく、連続的に異なったスキー場で開催されており、競技も複数あって面白い。
●逆走マラソンがあるから、福島に足を運ぶランナーが増えてきていて、独創性に優れ、新たな地域の魅力を創り出している。
●継続して開催されており、多くのランナーに支持されている。
●6スキー場各社が協力し、連携して取り組んでいる。

次回開催日程

■開催日：平成30年5月6日～10月20日迄6レース
■6スキー場（猪苗代リゾート、リステル、箕輪、沼尻、ばんだい×2、猪苗代）
■問い合わせ先：
・団 体 名　GAMBARUZO!ふくしま実行委員会
・住　　所　〒969-2696　福島県耶麻郡猪苗代町川桁ホテルリステル猪苗代内
・電話番号　0242-67-4110　・URL　http://www.gambaruzo.jp/

最優秀賞

第22回
ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

ゲレンデ逆走マラソン

震災以降、風評被害に悩んでいた私たちは、「GAMBARUZO!ふくしま実行委員会」を立ち上げ、モーグルのワールドカップを毎年開催していたリステルスキーファンタジア(福島県猪苗代町)で、ゲレンデを逆走するという奇抜なマラソンを企画し、安心・安全を全国にアピールしようと試みました。平成23年6月5日に開かれたこのマラソンは「下からゲレンデを駆け上がる」という前代未聞のレースながら「馬鹿らしいけど面白い」と参加ランナーからお褒め(?)の言葉を頂戴しました。それで自信を得た私たちは「ゲレンデ逆走マラソン」と銘打ち、表磐梯にある5スキー場(猪苗代リゾートスキー場、リステルスキーファンタジア、沼尻スキー場、ばんだい×2スキー場、猪苗代スキー場)と手を組みシリーズ戦へと駒を進めたのです。しかし、全くノウハウを持たない私達は、初年度8戦を開催して400人強、続く平成24年も400人程度の参加数と苦戦し、私たちが目指した結果は得られず惨敗の2年間を過ごしました。ところが、3年目となる平成25年から状況が少しずつ変化して参ります。

各ゲレンデの特徴を生かしたレース、そして、地域の温泉施設が選べる「入浴券付き」等々、この2年の反省を生かした魅力ある「逆走マラソン」作りに着手しました。その結果、その年は全5戦ながら延べ800人のアスリートを集めました。翌年、新たに箕輪スキー場が加わり、逆走マラソンは6スキー場での開催へと拡大。この年の参加ランナーは、延べ1200人強となっていました。そして平成27年は1500人を超え、平成28年・平成29年は1600人超えを果たし、着実に毎年参加ランナーを増やし続けて参りました。

いつからか参加ランナーは、「逆走マラソンがあるから、福島に足を運ぶ」という、私達の最も望んでいた形になっていました。そこには、原発事故という弊害は一切ありません。私たちは、そんなランナー達を温かく迎え、励まし、楽しんでもらうよう努めて参りました。

これからも、多くのランナーに愛され、そして支持され、選手と共に成長する、そんな魅力ある逆走マラソンを追求して参りたいと思います。

主催者メッセージ



風評被害に苦しんでいた磐梯高原6スキー場が、かつての賑わいを取り戻そうと、オフシーズンのゲレンデを駆け上がるというユニークなマラソンを企画しました。当初こそ思うようにランナーが集まらず苦戦しましたが、徐々にファンが増え、これまで43戦を開催。今回の受賞で、私達の活動がご評価をいただけたと嬉しく思っております。

GAMBARUZO!ふくしま実行委員会
事務局長
佐藤 勇一さん





開催DATA

自治体名	福島県猪苗代町
自治体人口	14,641人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	GAMBARUZO! ふくしま実行委員会
開催回数	43回
開催日	平成29年4月29日～10月21日迄6レース
開催場所	6スキー場(猪苗代リゾート、リステル、箕輪、沼尻、ばんだい×2、猪苗代)
観客数	1,787人(2017年総エントリー数) 1,635人(総参加数)※観戦・応援者除く







評価のポイント

●東北屈指の工業都市として発展してきた八戸市は、工場を地域資源として捉え、大学のように講義、課外活動、サークル活動など創意工夫している。
●講義では、工場が持つ多様な魅力に着目し、地元の工場への理解や親しみを深めている。
●小規模でありながら、八戸市の職員が企画・運営・集客し、工場、市民、アーティスト等が協働でアートプロジェクトを実施することで、市民の誇りを喚起しその魅力を市内外に発信している。

次回開催日程

■開催日：平成30年8月～平成31年3月（予定）　■開催場所：八戸市内（予定）
■問い合わせ先：
・団 体 名　八戸市まちづくり文化推進室
・住　　所　〒031-8686　八戸市内丸1-1-1
・電話番号　0178-43-9156　・URL　http://www.8kojyodaigaku.com/

ふるさとキラリ賞

第22回
ふるさとイベント大賞

八戸工場大学

八戸市は、海から拓け、海とともに発展してきたと言われ、臨海部には多様な工場群が連なります。東日本大震災では、多くの工場が甚大な被害を受けました。

しかし、1日も早い復旧に向けて取り組み、操業を始めた工場を見て、多くの市民が元気をもらいました。

八戸工場大学は、自分たちのまちの工場を、景観、まちづくり、観光、文化、産業などの視点から多角的にとらえ、また、新しい視座と気づきをもたらしてくれるアートを組み合わせることで、工場の魅力や価値を再発見し、発信していく事業で、工場好きの市民、企業、アーティスト、行政が連携して運営しています。

活動は、工場の職員や、工場景観の専門家、アーティストを講師として招き、多様な切り口から工場を学ぶ「講義」、工場を見学する「課外活動」、アートプロジェクトを実施する「サークル活動」の3本柱です。

工場が元気であること、工場のまちとして誇れること、それが八戸の力です。

アートで工場の魅力にせまり続けます。





主催者メッセージ



八戸工場大学は工場のことを学びながら、工場とアートを組み合わせて新たな魅力を探るユニークな事業です。今後は、役目を終えて解体される、八戸で一番高い工場の煙突に別れをつげるイベントを計画しています。屋形船や観光遊覧船では、海から工場景観を見るコースもありますので、ぜひ、当市へお越しください。

八戸市
芸術環境創造専門員
大澤 苑美さん

開催DATA

自治体名	青森県八戸市
自治体人口	232,361人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	八戸市
開催回数	5回
開催日	通年（講義：平成28年8月24日～12月15日の内隔週6回、課外活動:平成28年9月10日、10月15日、サークル活動：平成28年11月18～20日、平成29年1月13～15日）
開催場所	八戸市内
観客数	受講生各回30人×6回、イベント集客推定500人







評価のポイント

●運搬方法が変わった現在、技の伝承と町おこしのために、誰でも参加できる体験型イベントとして開催している。
●地域住民が郷土料理を提供し、一本杉乗りの名人の称号をもつ住民が講習会を開催するなど、創意工夫を凝らし、集客拡大につなげている。
●継承が難しい古来の技を守り伝えながら、郷土愛の醸成につなげている。

次回開催日程

■開催日：平成30年7月29日（日）予定
■開催場所：徳島県那賀郡那賀町木頭和無田（木頭診療所前の河川）
■問い合わせ先：
・団 体 名　那賀町役場木頭支所
・住　　所　〒771-6402　徳島県那賀郡那賀町木頭出原字マエダ34番地
・電話番号　0884-68-2311　・URL　http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/

ふるさとキラリ賞

第22回
ふるさとイベント大賞

木頭杉一本乗り大会

かつて、木頭の名産「木頭杉」は、那賀川の流れに乗せて川下へ運びました。そこで育まれた、丸太に乗り急流を下る伝統の技“一本乗り”。

道路の整備により運搬方法としての一本乗りは途絶えましたが、技の伝承と町おこしのため、体験型イベント「木頭杉一本乗り大会」が始まりました。

水に浮かぶ丸太に立てば10級、50メートル下れば4級、激流の名人コースを下りきれば名人と、試技により段位が認定されます。

竹ざおを手に長さ4メートルほどの丸太に乗るだけというシンプルな競技。

100人を超える参加者の多くはリピーターです。前回の悔しさを胸に自己記録の更新を狙います。

大会前の約1カ月。週末毎に講習会が開かれるのも特徴の一つ。講習会では､地元の「名人」が直接指導してくれます。

地元にもすっかり定着したこのイベント。会場設営は地元の建設会社、出店は婦人会と住民総出で大会を盛り上げます。

アメゴバーガー、ゆずサイダーといった地元グルメも大人気です。

主催者メッセージ



「お祭り」ではなく「競技」としての側面を持つこのイベント。昨年の観覧者が、今年の挑戦者ということもしばしば…。

那賀ブルーの清流は、乗り切れば至上の喜び、たとえ落ちても、無類の爽快感!

特産の木頭ゆずを使ったゆずサイダー、渓流の女王・アメゴを使ったアメゴバーガーなど会場で味わう地元グルメもおすすめ♪

木頭杉一本乗り実行委員会
会長
福井 功さん





開催DATA

自治体名	徳島県那賀町
自治体人口	8,588人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	木頭杉一本乗り実行委員会
開催回数	29回
開催日	平成28年7月31日
開催場所	徳島県那賀郡那賀町木頭和無田（木頭診療所前の河川）
観客数	約300人

優秀賞

第22回
ふるさとイベント大賞

城下町しばた全国雑煮合戦

毎年1月の寒い中に屋外で行う、新発田の冬の風物詩となったイベント。全国各地の伝統的な雑煮や趣向を凝らした創作雑煮が一堂に会し、地元の伝統的な具沢山雑煮「しばた雑煮」と日本一の雑煮を競い合います。一般来場者による投票と特別審査員によるポイント制で優勝雑煮(=征夷大将軍)を決定します。

使用する餅は地元の子ども達が田植えや稲刈りを行った新発田産の最高級「こがねもち」を使用しています。 寒い中食べるアツアツのお雑煮は絶品です。

近年では、会場を中心市街地である商店街に移し、市街地の活性化に貢献できるよう取り組んでいます。

また、環境配慮型イベントを目指して、リサイクル可能な内フィルムを剥がすタイプの容器を使用し、残飯の堆肥化などを行い、ゴミの縮減に努めるとともに、無料シャトルバスを運行しパークアンドライド方式による排気ガスや燃料の抑制に配慮しています。

イベントの定着化に伴い、新発田市伝統の具だくさん雑煮を参考に、レトルト雑煮が開発され、新発田のお土産品として好評価を得ています。







主催者メッセージ



「伝統」「洋風」「スイーツ」などバラエティ豊かでオリジナリティあふれるお雑煮の中から自分のお気に入りの雑煮を探すのが醍醐味の１つです。

他にも、雑煮合戦の広告塔となる「看板娘」を決める「看板娘コンテスト」や、毎年好評を得ている「もちまき」など、付帯イベントも盛り沢山です。

新発田商工会議所青年部
平成28年度 会長
武田 昌宏さん

評価のポイント

- ●国内最大級の雑煮イベントであり、全国各地の雑煮が楽しめる。
- ●会場を中心市街地である商店街で行い、市街地の活性化に貢献している。
- ●1月はイベントが少ない時期でありながら、独自性が高く創意工夫されている。
- ●稲作が盛んな新発田市で雑煮餅のもち米を地元の子どもたちとその保護者が手植えし、秋に収穫した最高級新潟産「こがねもち」を使用し、地元の企業が餅に加工するなど地域が積極的に参加している。
- ●イベントの運営にボランティアとして市内の大学生や高校生が協力し、地域とかかわりを持ってイベントを開催している。
- ●環境配慮型イベントを目指し、たい肥をつくり、「こがねもち」の栽培に利用するなど、食の循環に着目した取り組みを行っている点も評価できる。

次回開催日程

■開 催 日：平成31年1月13日（日）
■開催場所：新発田市内
■問い合わせ先：
・団 体 名　新発田商工会議所青年部　事務局
・住　　所　〒957-0053　新潟県新発田市中央町4-10-10
・電話番号　0254-22-2757
・ＵＲＬ　http://zonigassen.com

開催DATA

自治体名	新潟県新発田市
自治体人口	98,912人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	新発田商工会議所青年部
開催回数	13回
開催日	平成29年1月8日（日）
開催場所	新発田市新市庁舎（ヨリネスしばた）
観客数	25,000人

優秀賞

第22回
ふるさとイベント大賞

飯塚新人音楽コンクール

毎年5月に予選、6月に本選を開催する若手音楽家の登竜門「飯塚新人音楽コンクール」。ピアノと声楽の2部門に分かれ、全国各地から集まった精鋭たちが競い合います。昭和57年から36回の開催を重ねましたが、きっかけは「飯塚に良いピアノを」と市民からの募金をもとに購入した名器スタインウェイでした。「旧産炭地」というイメージをこの活動によって払拭し、「文化都市飯塚」に向けて舵を切りました。準備期間を経て、飯塚市制50周年記念イベントとしてスタートしましたが、今では日本有数の優れたクラシックコンクールへと成長し、飯塚市の音楽文化の礎となっています。

受賞者はその後、国内のみならず世界へ羽ばたき、目覚ましい活躍をみせています。

厳粛な雰囲気の中で行われる真剣勝負はコンクールならではの面白さです。未来のスターたちのハイレベルな挑戦を目の当たりにする絶好の機会として、長きにわたり多くの観客を魅了し続けています。



主催者メッセージ



飯塚文化連盟
会長
藤木 徹雄さん

若手音楽家たちが人生をかけて舞台に立つ姿はとても凛々しく、また素晴らしい演奏は胸打たれるものです。

裏舞台では参加者が演奏だけに集中できるよう、たくさんの市民ボランティアがきめ細やかに運営を支えています。市民に愛され、大切に育まれた「小さな街の大きな宝」をぜひご堪能ください。ボランティアスタッフが笑顔でお迎えします。

評価のポイント

- クラシック音楽部門におけるピアノ・声楽を専攻する新人演奏家としての登竜門になっている。
- 昭和57年から36回の開催を重ね継続しており、全国から精鋭が集まり、優れたクラシックコンクールへと成長してきている。
- 市内の音楽サークルを中心とした市民ボランティアが出演者の案内を担当し、運営を支えている。
- 予選・本選に集まった1,500人以上の入場者は地域に根付いたイベントとして音楽文化の興隆に寄与している。
- 予算面においては、市民のピアノ購入運動によって集まった寄付金を使って購入したピアノを使用している。
- 市民が自宅のピアノを提供して練習できる体制を整えている。
- コンクールをきっかけに飯塚の認知度を高め、交流人口の増加に寄与している。

次回開催日程

■開 催 日：予選：平成30年5月3、4、5日
本選：6月3日　入賞者招待演奏会：10月6日
■開催場所：飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）
■問い合わせ先：
・団 体 名　飯塚文化連盟
・住　　所　〒820-0041 福岡県飯塚市飯塚14-67 イイヅカコミュニティセンター内
・電話番号　0948-22-3274
・ＵＲＬ　http:www.iizuka-bunren.com/





開催DATA

自治体名	福岡県飯塚市
自治体人口	129,801人　※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	飯塚文化連盟、朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、飯塚市、飯塚市教育委員会、九州山口音楽協会
開催回数	第36回
開催日	予選：平成29年5月3、4、5日 本選：6月4日　入賞者招待演奏会：10月7日
開催場所	飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）
観客数	1,502人

優秀賞

第22回
ふるさとイベント大賞

日向ひょっとこ夏祭り

日向ひょっとこ夏祭りは、明治時代末期に日向市塩見の永田地区で考案された「永田のひょっとこ踊り」を伝統芸能として保存し、全国的に広めるために始められた祭りです。

当祭りは昭和59年（1984年）より毎年開催しており、年々参加者が増加し、今では全国各地から2000人を超えるひょっとこ踊り愛好家が集まる夏の一大イベントとなっています。

祭りは8月の第1金曜日と土曜日に開催しています。前夜祭ではひょっとこ踊りの技能を競う個人戦、本祭りでは市街地でのパレードが行われます。日向市の市街地がひょっとこの赤着物一色で染まる様子は圧巻です。

軽やかなリズムと面白おかしいきつね・おかめ・ひょっとこの面をかぶった踊り手の動きが魅力的で、観客の笑顔があふれる祭りとなっています。踊り手は、現在では地元宮崎県以外28都道府県からの参加があり、将来は全国47都道府県まで参加者が増大することを目標としています。







主催者メッセージ



日向ひょっとこ踊りの源流となる「永田のひょっとこ踊り」は五穀豊穣と子孫繁栄を祈願する伝統芸能です。きつね・おかめ・ひょっとこが大勢連なってリズム良く踊る様子が日向市の夏の風物詩となっています。踊り手と観客が触れ合える愉快な祭りです。踊りだけでなく笑いの中に自身を置くだけでも幸せになるお祭りです。

日向ひょっとこ夏祭り
実行委員会事務局
（一社）日向市観光協会
専務理事・事務局長
山本 達雄さん

評価のポイント

- 地域を代表する「永田のひょっとこ踊り」は伝統芸能として保存、伝承され、全国に広めるために始められた。
- 北は北海道から南は鹿児島まで全国各地から2000人を超える踊り手が参加し、観客動員数は日向市の人口を超える74000人が集まるイベントとなっている。
- 赤着物の揃いの衣装で、きつね・おかめ・ひょっとこ面を被って、面白おかしく動かす振付と踊りはユニークで、多くの人を惹きつける魅力がある。
- 国内のみならず、ネパールやスペイン、韓国や台湾などで踊りが披露されるなど、海外からも注目されており、さらなる交流人口の増加を通じた地域活性化が期待できる。

次回開催日程

■開 催 日：8月3日（前夜祭）、8月4日（本祭り）
■開催場所：日向市駅前交流広場及び中心市街地
■問い合わせ先：
・団 体 名　日向ひょっとこ夏祭り実行委員会　事務局
・住　　所　〒883-0014　宮崎県日向市原町1-2-1-101
・電話番号　0982-55-0235
・ＵＲＬ　http://www.hyottoko.jp/

開催DATA

自治体名	宮崎県日向市
自治体人口	62,314人　※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	日向市（主管:日向ひょっとこ夏祭り実行委員会）
開催回数	34回（2017年時点）
開催日	毎年8月第1金曜日・土曜日
開催場所	日向市駅前交流広場及び中心市街地
観客数	74,000人（第33回） 65,000人（第34回：台風のため減）

選考委員特別賞

第22回 ふるさとイベント大賞

潮来の嫁入り舟

水郷地帯だった潮来は、昭和30年代まで町中に水路が張り巡り、嫁入り道具を積んだ和舟の花嫁さんは普通に見られた光景でした。現在は毎年6月に行われる水郷潮来あやめまつりにおいて「潮来の嫁入り舟」としてその姿を今に伝えています。このイベントは公募で選ばれた本物の新婚夫婦が主役。大勢の観光客に祝福されながら手漕ぎの和舟に乗り込んだ花嫁は下流で待つ花婿の元へ向かい、愛を誓い合います。土曜日の夜には「宵の嫁入り舟」と称して地元潮来の祭り囃子の奏者たちが乗る「芸座舟（げざぶね）」が花嫁の乗る舟に付き添い、まるで江戸時代にタイムスリップしたような幻想的な雰囲気が大変好評を博しています。潮来独自の婚礼文化を今に伝えるこのイベントは官民協働で行われており、潮来市を代表するイベントとして市民に愛されています。最近は海外からの観光客も魅了するなど今では潮来の初夏を代表する一大行事となっています。

主催者メッセージ



「潮来の嫁入り舟」は水郷潮来の初夏を彩るあやめまつりのメインイベントとして、官民協働で長きにわたり行われてきました。花嫁の白無垢の美しさやゆっくりと進む手漕ぎのろ舟の和の趣きは、古き良き日本情緒や水郷地帯独自の婚礼文化を今に伝える貴重なイベントです。花嫁さんに会いにぜひ潮来にお越しください。

潮来市
市長
原 浩道さん

評価のポイント

- 舟で嫁入りを行っていたという歴史的背景を活かし、古き良き日本文化を伝えている。
- 毎年80組以上の新婚夫婦から応募があり、選ばれた29組の夫婦が「嫁入り舟」に参加している。参加したお嫁さんからの「潮来花嫁さん」を志望した想いに感動した。
- 主役となった大勢の観光客に祝福されながら、幻想的な雰囲気のなか、潮来独自の婚礼文化を伝える貴重なイベントとして市民に愛されている。
- 来場者82万人の「水郷あやめまつり」において特に人気の高いイベントで、特産品の販売などを通じた経済効果も高い。

次回開催日程

■開 催 日：平成30年5月26日（土）から6月24日（日）
■開催場所：水郷潮来あやめ園・前川・常陸利根川（茨城県潮来市）
■問い合わせ先：
・団 体 名　水郷潮来あやめまつり実行委員会
・住　　所　〒311-2493 茨城県潮来市辻626（潮来市役所産業観光課内）
・電話番号　0299-63-1111
・U R L　http//www.e-tabi.org





開催DATA

自治体名	茨城県潮来市
自治体人口	28,641人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	水郷潮来あやめまつり実行委員会
開催回数	第32回（水郷潮来あやめまつりは第65回）
開催日	毎年5月最終週の土曜日から6月最終週の日曜日
開催場所	水郷潮来あやめ園・前川・常陸利根川（茨城県潮来市）
観客数	82万人

平成29年度地方創生フォーラム in 東京

「木づかい」から地方創生を学ぶ

―涌井雅之氏・隈研吾氏が基調講演―

第22回ふるさとイベント大賞表彰式に続き、同会場で平成29年度地方創生フォーラムin東京を開催した。日本の国土は約7割が森林であり、世界有数の森林国である一方、木材自給率は3割にとどまっている。今回は「木づかいでつなぐ都市と農山村」をテーマに基調講演と事例発表が行われた。

基調講演①：日本の森と暮らしをつなぐ

はじめに、「日本の森と暮らしをつなぐ」と題し、東京都市大学特別教授の涌井雅之氏が基調講演を行った。

大気中の二酸化炭素濃度は産業革命以降増え続けている。人間の環境汚染で引き起こされる異常気象による災害も近年増えており、気温が1度上昇すると、自然災害が起こる確率が3割上がるという。涌井氏は、「二酸化炭素をこれ以上増やさないためには、森林に期待するしかない」と語った。

日本の森林は豊富な資源でありながら活用しきれていない。中山間地域や過疎地域などの条件不利地域は、経済的に見ると淘汰されてしまうものだが、環境問題に対する貢献度はとても高い。

中山間地域や過疎地域の人たちが生活を営んでいるからこそ都市の生活が成り立っており、森林資源を活用するためには、木を切って植えて育てるという循環が必要である。そのため、都市で地方の木材を使うことは地方の人々の暮らしを支えることになる。涌井氏は、「都市は地方があってこそ健全である。また、森林には人の疲れを洗い流す効果もあり、そのような意味でも木の可能性は無限大である」と述べた。

基調講演②：「コンクリートの時代」から「木の時代」へ

続いて、「『コンクリートの時代』から『木の時代』へ」と題し、建築家の隈研吾氏が基調講演を行った。

隈氏は、「20世紀は経済成長とともに木の建築からコンクリートの建築へ移り変わる時代であったが、近年は建築業界でも木を使うことがトレンドとなっている」と語り、その経緯を説明した。

20世紀に起こった関東大震災と第二次世界大戦中の空襲により東京は焼け野原となり、都市が燃えるということに対して皆が危機感を持っていた。そのため、東京を燃えにくいコンクリートの都市へ作り変えようとした。しかし、近年では環境問題が世界的な課題となり、自然循環を取り戻すという意図で木を積極的に建築へ使おうという潮流がある。木材を燃えにくくするなどの技術革新も2000年（平成12年）頃から急速に発達しており、人々の意識と新しい技術が合わさって木の時代がやってきているという。

また、隈氏は自身が設計した栃木県那珂川町馬頭の「広重美術館」を紹介した。美術館全体を地元材の格子で覆った建物で、内装にも地域材を使用している。地域材を使うことで、地域の人々が建物を見る目が変わってきたと語った。



会場風景

事例発表①：木を活かした復興まちづくり

次に、「あの日を忘れずともに未来へ～東松島一心～東日本大震災の対応と木を活かした復興まちづくりについて～」と題し、宮城県東松島市前市長の阿部秀保氏が事例発表を行った。

東日本大震災から丸7年が経つ

が、心の面を考えると復興の進捗率を表すのは難しく、まだまだ時間が必要だと阿部氏は冒頭で語った。

東松島市は太平洋に面し、日本三景の松島を有する風光明媚なまちである。東日本大震災での津波により市街地のおよそ3分の2が浸水し、死者1109人、いまだに行方不明者が24人（平成30年1月現在）いる。震災の際には市内にある8つの自治組織がそれぞれ避難所運営を行い、阿部氏は共助の大切さを実感した。自治協働のまちづくりを目指し、復興計画の策定にも地域でワークショップを行ったり、中学生の意見を取り入れたりしているという。

平成24年には産官学民が連携した復興のための中間支援組織として、一般社団法人東松島市みらいとし機構が設立された。市内外の企業、研究機関、NPOなど65団体が加入している。



隈研吾氏による基調講演

その中でも、震災の翌年には住友林業株式会社と「復興まちづくりにおける連携と協力に関する協定」を結び木化都市に向けた取り組みを行っている。木造で建てた災害公営住宅は、入居率が97％（平成29年12月現在）で、「住み心地が良い」と評判だという。市内野蒜（のびる）地区の宮野森小学校では、福島県産材と宮城県産材を使って校舎を木造化した。自然を学ぶだけではなく心の教育に木は必要であり、森は子どもたちをリフレッシュさせると阿部氏は語った。また、一般財団法人C．W．ニコル・アファンの森財団と協力して、学校の裏山に「森の学校」としてツリーハウスを作るなど自然環境学習の場を整備している。



阿部秀保氏による事例発表

阿部氏は、「震災を契機に地域課題解決型の復興を目指した」と語った。

事例発表②：木材利用を通じた原産地と消費地との連携

最後に、「木材利用を通じた原産地と消費地との連携」と題し、川崎市長の福田紀彦氏が、都市と地方で連携し、マーケットを作り雇用を生み出していく持続可能な地方創生モデルの「崎-崎モデル」を紹介した。



福田紀彦氏による事例発表

川崎市は、東京都と横浜市に挟まれた人口約150万人の市で、人口減少が問題となっている昨今でも人口は増加し続けている。面積は約144平方キロで、政令市で最も面積が小さく、極度に人口が集中している地域だ。市内総生産は約5・3兆円で、そのうち林業が占める割合は0％である。

そんな川崎市が大消費地という強みを活かして、原産地である宮崎県と連携を始めた。宮崎県は日本一の杉の産地であり、木材加工技術も進んでいる。お互いの強みを活かすため、平成26年に宮崎県と川崎市は「宮崎県と川崎市との連携・協力の取組に関する基本協定」を締結した。福田氏は、「これからは自治体間競争でなく自治体間連携の時代である」と語った。

協定に基づき、川崎市では木材利用促進を目的としたフォーラムの開催や、林業の実態を知るために市内の設計事務所をはじめとする企業の宮崎県への視察など、様々な取り組みを行っている。また、公共建築物の木質化だけでなく、市内の企業にも木を使ってもらえるように働きかけている。

福田氏は「自治体同士の連携により、地方と都市の産業がどちらも活発になる仕組みを今後も発展させていきたい」と締めくくった。

移住・定住・交流推進支援事業

（熊本県荒尾市・玉名市・玉東町
南関町・長洲町・和水町）

「婚活」で集客、各種事業と連携して交流人口創出

―「あらたま魅力体感婚活ツアー」で移住・定住・交流を推進―



有明広域行政事務組合荒尾玉名地域結婚サポートセンター
「KOIBANA」結婚アドバイザー
● 柳原 志保

都市から地方への移住・交流は、人口減少社会における地域活性化策の柱として期待される。地域活性化センターでは、「移住・定住・交流推進支援事業」として、地域団体もしくは市町村等が自主的・主体的に実施する、都市住民などを受け入れる事業を支援している。

今回、平成29年度に同事業を活用した熊本県あらたま地域（荒尾市・玉名市・玉東町・南関町・長洲町・和水町）での取り組みを有明広域行政事務組合荒尾玉名地域結婚サポートセンター「KOIBANA」結婚アドバイザーの柳原志保氏にご紹介いただいた。

（企画・コンサルタント業務課）

しあわせ応援プロジェクト始動

熊本県あらたま地域（荒尾市・玉名市・玉東町・南関町・長洲町・和水町）の人口は、1985年の約18万8千人から2015年の30年間で約2万5千人減少しており、2015年から2040年までの25年間でさらに3万7千人が減少し、約12万5千人になると推測されています。

そんな時期、私たちが行ったあるイベントで、福岡都市圏の参加女性から「福岡市内には独身女性が多数いるのでぜひ出張お見合いをしてほしい」などの意見が多数ありました。福岡都市圏をターゲットにするという発想はこの段階ではなく、まさに目から鱗が落ちる思いでした。

私たちとしても、人口減少が進む中、「あらたま地域管内の未婚者を対象にした婚活事業だけでは、会員の獲得にいずれ限界が訪れるのではないかとの危機感を感じていたこと」また「あらたま地域は、2つの高速道路インターチェンジ及び九州新幹線の駅を有し、特に福岡都市圏との交通の利便性に優れ、移住・定住・交流に優位性を備えた地域であること」などの理由から、この機会をチャンスととらえ、福岡都市圏の女性に会員登録を呼びかけて結婚につなげる事業を計画。その事業を私たちは「しあわせ応援プロジェクト」と名付けました。

しあわせ応援プロジェクトを「あらたま方式」により加速

実は、私は宮城県からの移住者です。東日本大震災で被災し、和水町に移住、その後同町の地域おこし協力隊として3年間活動し、移住者の立場を生かして地元の人にとっては当たり前のモノや人に注目してそれが魅力だという視点を大事にしています。その経験を生かせる場所として、平成27年度より荒尾玉名地域結婚サポートセンター「KOIBANA」のスタッフとなりました。

しあわせ応援プロジェクト事業を展開して行く中で、婚活にはすごい集客力があることがわかりました。単独では厳しい事業に「婚活」という入口で集客する。事業間連携の発想を取り入れ、私たちの中では、その方法を「あらたま方式」と呼んでいます。

例えば、婚活×ひとり親支援を組み合わせ「子育て支援型婚活」として実施。婚活×防災を組み合わせ「防災型婚活」、他にも「人財育成型婚活」「観光型婚活」「地域活性化型婚活」「男女共同参画型婚活」「生涯学習型婚活」そして、今回「移住定住型婚活」として婚活×あらたま地域の魅力体感を組み合わせて、移住・定住・

交流推進事業を行いました。

「あらたま魅力体感婚活ツアー」による移住・定住・交流推進事業

○福岡都市圏におけるＰＲ活動

メディアやイベントを活用したＰＲ活動を実施することにより、福岡都市圏に対してあらたま地域の魅力を発信し、「結婚しても住みやすいまち〝あらたま〟」、「里帰りが気軽に出来るまち〝あらたま〟」として、結婚後のあらたま地域での生活（移住・定住）をイメージさせるようなＰＲを行いました。

○婚活ツアー

（クルージングパーティー）の実施

12月のクリスマスシーズンにフェリーを貸し切り、男性30人、女性30人の計60人によるクルージングパーティーの募集を行いました。男女あわせて１５０人以上の応募があり、急きょ男女各40人、計80人に増員しました。このイベントニーズの高さには驚かされました。

パーティーにおいては、荒尾・玉名地域の魅力を体感できるよう、地域の特産品等を使った料理でおもてなし。また、専門の講師によるスキルアップ講座で、自分から積極的に行動することの大切さを参加者に意識づけしました。

アンケートには「ただ話すだけではない、練りに練った企画を考えてくれたスタッフのみなさんに感謝！すばらしい企画力」など嬉しい声も頂きました。

しあわせ応援プロジェクトの成果

今回、本助成金事業の採択を受けたことで、福岡都市圏の女性をメーンとして、当組合の婚活事業や、あらたま地域の移住・定住・交流推進に係る大規模なＰＲ活動及び婚活ツアーを実施することができました。結果、婚活ツアーにおいては、募集定員を大幅に上回る応募があり、応募総数男女あわせて１５２人、参加者男女あわせて78人、カップル数24組と、当組合の婚活イベント史上最多の参加者数及びカップル成立数となりました。

平成29年度（２月末現在）においては、成婚実績30組となり、着実に成果が出てきています。また、福岡都市圏におけるＰＲ活動実施後、通常、約１０００回／月の荒尾玉名地域結婚サポートセンターのＨＰのアクセス数が、約４０００回／月（約４倍）に増加しました。



福岡都市圏でのイベントにおいてPR



婚活イベント（船上内）



フリータイム（船上外）

事業後の展望

私たちは、「あらたま方式」で、今も新たな交流人口を生み出す取り組みを行っています。

これは、物理的資源で集客するのではなく、婚活で集客を行う取り組みです。この方法であれば、物理的に資源が有る無しにかかわらず、交流事業が可能となります。

私がスタッフになった当初は、アンケートで後ろ向きの声が多かったように思います。しかし、しあわせ応援プロジェクトを始動したことで「自ら積極的に動くことの大切さを学びました」など前向きな声に変わってきました。

このように各種セミナー等を通じて会員の人財育成にも力を入れています。あらたまの男女と結婚出来て良かったと思ってもらう。人もあらたまの大切な財産（資源）であるという考え方です。

婚活を入口としてかけ合わせる「あらたま方式」は、まだ発展の途中ではありますが、知恵を絞り、あらゆる可能性を引き出したいと考えています。「しあわせ応援プロジェクト」と「あらたま方式」により、あらたま地域にあるたくさんの魅力を発信していき、「住んでみたい」と思ってもらえる移住・定住・交流事業を継続的に推進、少子化の抑制、地域の活性化に波及することを目指していきたいと考えています。

海外調査報告

イギリス・ロンドン

BID 制度と中心市街地活性化

―公民連携によるまちづくり―

かつて経済の中心であった「中心市街地」に賑わいを取り戻そうと様々な施策が講じられてきたが、自治体等へ補助金を交付する「支援型」の施策がその多くを占めていた。しかし、これからの都市経営課題を解決するには、これまでとは異なる「公民連携」の手法を用いた資金調達・事業の推進が必要となってくるため、英国における公民連携の基盤となる「BID 制度」について調査した。



ハマースミス地区でのイベントの風景
視察事例①

BID制度の概要

BID（Business Improvement District：ビジネス活性化地区）とは、特定の地域で通常の税に上乗せする形で「負担金」を徴収し、それを地域のまちづくりを担う組織であるBID団体に交付し、BID団体が公共空間の維持管理や開発、地域のプロモーション等のエリアマネジメントを行う制度である。現在では英米をはじめ世界の約2000地区で導入されている。民間主体で協議した後に行政が法整備をすること、設立までに数年の協議期間を設けていること、設立後5年程度の一定間隔で更新の意思を確認していること、などあくまでも民間の合意形成に基づきながら継続しており、また「エリア価値の向上」を設立目的としていることが特徴である。



サザーク区にて道路にペイントが
施されている様子　視察事例②

実地調査

実地調査①（Hammersmith London BID）

ロンドン市内中心部から少し離れた西部ハマースミス・アンド・フラム・ロンドン特別区に位置するハマースミス地区では、Hammersmith London BID（2006年～）が設立されている。

同団体は、（1）警備員を雇い監視カメラと無線による安全維持システムの構築（2）植樹やリサイクルの徹底による環境改善活動（3）地元の芸術団体と協働したイベントの開催（4）地元企業と協働によるイベントの開催、を主な活動内容としており、それぞれ目標数値を上回る成果を残している。

実地調査②（Better Bankside BID）

ロンドン市内中心部に位置するサザーク区には、3つのBIDが存在しており、なかでも初期段階より設立されているのがBetter Bankside BID（2005年～）である。

同団体は、（1）高度な機械を用いた舗道の掃除といった行政上乗せ的な清掃業務（2）レンジャーの雇用によるエリアの安全確保と犯罪予防（3）公共広場の整備を行い、植樹の促進や公共スペースを創作する等の都市整備（4）地元美術大学との協働で通路空間の改良やレンタサイクルの配置といった都市環境改善（5）地域のプロモーションを目的としたイベントの開催、といった活動を主に行っている。「エリア価値の向上」というBIDの設立目的に鑑み、当該地区の「地価」を活動の成果としてみていくと、2009年から2016年の7年間で約5倍という数値の通り、大きな成果を上げている。

公民連携の可能性

BIDの成り立ちや現在の状況を調査していく中で、最も特徴的なのが「エリアマネジメント」という考え方である。近年、「大阪版BID」を皮切りに日本でもこの考え方が根付きはじめており、「個」に対する支援から「エリア価値の向上」を目的とした施策へと変わりつつある。

今後は「持続可能な都市経営」の仕組みをいかに構築するかが重要であり、新しい概念であるBIDをはじめとした「公民連携」により、行政が「公」を担う時代から民間と行政とが協働して「公」を担う時代へと変革していかなければならない。

地域活性化センター地域支援業務課
元副参事　●坂井　洋介

海外調査報告

オランダ・ユトレヒト市

学校・地域・家庭の連携による地域づくり

～オランダのピースフル・スクール・プログラムとピースフル・コミュニティ・プログラム～

文部科学省では、保護者や地域が学校の様々な課題解決に参画し、それぞれの立場で主体的に子どもの成長を支えることで、子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを構築し、質の高い学校教育の実現を図ることを目的として、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置を推進している。

本調査研究では、オランダ・ユトレヒト市におけるピースフル・スクール・プログラムとピースフル・コミュニティ・プログラムについての調査を通して、学校・地域・家庭の連携によるコミュニティ・スクールの在り方について示唆を得た。

オランダの教育

オランダでは、憲法で「教育の自由」が認められており、「理念の自由」「設立の自由」「方法の自由」によって多様な背景を持つ学校が設立され、親や子どもは自らの方針に沿った学校を選択できる環境が整っている。教材選択などの教育方法は学校や教員に委ねられており、オルタナティブ教育（非伝統的な教育・代替教育）が実施しやすい環境である。

また、2006年から義務教育期間中におけるシティズンシップ教育（市民としての資質・能力を育成する教育）が義務化されており、ピースフル・スクール・プログラムは、この一手法である。

ピースフル・スクール・プログラム

ピースフル・スクール・プログラムの主な要素は、週1回の授業とメディエーターと呼ばれる上級生によるコンフリクト（人と人との対立・ケンカ）の仲裁である。プログラムでは①クラスの仲間作り②コンフリクトを自分で解決する③コミュニケーション④感情⑤コンフリクトの仲裁⑥違いの受容、という6つのテーマのそれぞれで、6～10回ずつ、年間で計38回行われる。ロールプレイや人形劇などのアクティビティを通して、他者の立場に自分を置き換えて物事を見直す練習もある。

視察したオヴァーフェヒト地区にある幼児センター（就学前教育）、特別支援学校、小学校2校では、それぞれの発達段階に応じたプログラムが実施されていた。

最近では保護者メディエーターを設けて、家庭や地域にも子どもたちが学んでいるプログラムを浸透させる取り組みが広がっている。

ピースフル・コミュニティ・プログラム

ユトレヒト市では、社会全体をよりよくすることにより、子どもが住みやすい環境に変えていくという考え方のもと、ピースフル・スクール・プログラムを地域にも広げる形でピースフル・コミュニティ・プログラムが推進されている。遊戯グループ（児童館）の視察では、学校で子どもたちが学んでいる内容と連携しながら取り組んでいると聞いた。

学校と地域の連携にあたっては、学校と地域がそれぞれの役割を果たしながら子どもと関わるためにも、第三者的なコーディネーターが関係機関のつなぎ役として働くことが非常に重要だという。



遊戯グループ視察風景



小学校で保護者メディエーターの方と

まとめ

オランダは、日本と教育や社会の仕組みが180度違っていた。しかし、子どもが育つ社会や地域の環境を整えることで教育の質を上げるという考え方は、日本においても変わらない。「地域で子どもを育てる」「子どもが幸せな地域は住みやすい地域である」ことはどの国でも同様で、普遍的なものであった。

地域活性化センター研修交流課
元副参事 ●加藤 淳子

いずれの報告も当センターの海外調査事業に基づくものであり、報告詳細は当センターのホームページでご覧いただけます。

「農業と食のまち」として地域をプロデュース
―グリーン・ツーリズムと食のブランドづくり・北海道長沼町―

農村地域には、食料の安定供給や低下を続けている食料自給率の向上、美しい田園風景や水源の涵養といった役割が期待されており、その再生は必要不可欠なものとなっている。
今回、「農」と「食」を地域活性化のキーワードに、都市部をターゲットとしたグリーン・ツーリズムや、食のブランドづくりを通じ、農村地域の魅力発信に積極的に取り組んでいる北海道長沼町を調査した。

北海道長沼町

都市部の子ども達をターゲットにグリーン・ツーリズム

グリーン・ツーリズム農家民宿の主なターゲットは都市部の児童・生徒である。子ども達が農家民宿に滞在することで農、食、そして、人との交流の重要性に気づかせることが狙いである。主な体験メニューは、「雑草取り、植付け、農産物収穫」であるが、生産者が子ども達に仕事を押し付けるのではなく、子ども達が自ら進んで仕事をするように誘導している。例えば、子ども達が一緒になって一つの作業に挑戦する際の目標を低目に設定することにより、試行錯誤しながらも最初の目標を達成することができ、次の目標を子ども達が自ら設定し行動するようになる。このように簡単に見える作業ではあるが、生産者が子ども達との接し方を工夫することで自ら行動できる人材の育成にも寄与している。

また、長沼町ならではの体験メニューが「共同調理」である。長沼町グリーン・ツーリズム推進特区の認定により、共同調理を行う場合は、受け入れ農家は飲食店の営業許可を受ける必要がなく、子ども達自らが収穫した作物を受け入れ農家と共同で調理している。これにより、食に関しての興味・関心を喚起することができ、また、消費者と生産者との信頼関係を構築することも可能となった。

少数ではあるが、農家民宿を希望する大人の受け入れも行っている。大人を受け入れる際には、B&B（宿泊と朝食）を基本とすることで、受け入れ農家の負担を減らすだけでなく、長沼町に点在する飲食店への回遊が生じるよう工夫している。

グリーン・ツーリズム事業はあくまでも「消費者と生産者とをつなぐツール」であることから、担い手の力に応じた規模で推進を図りつつ、また、「食のブランド化」との連携により地域内外への情報発信に取り組むこととしている。


視察の様子

食のブランドづくり ～3つの柱

長沼町での食のブランドづくりの主な取り組みは以下の5つである。

1つ目は、長沼町が「農業と食の町」として広く認知され、地域そのものをブランド化すること。2つ目は、長沼町産の農産物や農産加工品のイメージアップを図ること。3つ目は、農業者が主体的に付加価値の高い農産物の生産に取り組むこと。4つ目は、町民が主体的に農産加工に取り組み、ニーズの高い商品を生むこと。5つ目は、すべての町民が、長沼町産食材の良き理解者、応援団になることである。長沼町では、これらの5つの取り組みを推進するにあたり、「イメージづくり」「人づくり」も

のづくり」の3本の政策を柱として事業を展開している。

「イメージづくり」の取り組みとして、長沼町が進める「食のブランドづくり」の趣旨や方向性を伝えるためのコンセプトポスター、消費者に「農業と食の町」を印象づけるため長沼町らしい産品や長沼町が北海道での生産量が上位に位置する産品ポスターなどの作成、札幌市営地下鉄構内への広告掲載や物産販売などを通じて町内外への情報発信に努めている。また、長沼町産の農産物や加工品の販売ができるオンラインストア機能を備えた、食の情報発信サイト「長沼うまうまマルシェ」を平成28年1月に開設した。初年度に、年間100万円程度の売上があり、長沼産品の認知度向上に大きく貢献している。

「人づくり」の取り組みとして、6次産業化に関心のある町民向けの食品加工講習会や衛生管理講習会などを北海道の食品加工研究センターや保健所と連携して開催し、品質管理や衛生管理の意識向上を図っている。また、長沼町産食材をPRする応援団を増やすために、長沼町産食材を提供する店を長沼町が認定・登録する地産地消推進店登録制度を導入し、「イメージづくり」で作成した各種PR資材を配布して情報発信のツールとして活用している。

「ものづくり」の取り組みとして、町内外の企業や生産者の協力のもと、長ネギドレッシングやオニオンスープといった長沼産品を活用した商品開発を行い、手軽に長沼産品に触れられるような仕組みを構築した。将来的には事業の民間企業への移管も視野に入れている。長沼町が自ら経験して培ったノウハウを、過去の失敗や反省を含めて町民に還元することで、企業と連携した初期投資やリスクを減らしたモデルを提案している。

まとめ

長沼町でのグリーン・ツーリズムの取り組みは、行政側の指示によるのではなく、農家側の声により始まりこれまで継続してきたものだ。行政はあくまでもサポート役であること、主体はあくまでも住民であることといった役割分担をよく理解し、それぞれができることをできる範囲で行っている。

食のブランドづくりの取り組みでは、行政が率先して先進的なブランディング事業を目に見える形で実施してきた結果、食のブランドづくりの必要性への気づきや共感が町全体に広がり、長沼町の停滞した雰囲気を打開した。機動力のある民間と協働し、それぞれの立場での役割を明確にすることで効果を発揮している。

「農業と食の町」としてプロデュースしていく取り組みにより、まちのファンづくりや地元産品のブランド化を推進する事例である。

地域活性化センター
国内調査グループ
●小田智史　松元聖哉　吾郷紘平



産品ポスター


農業体験の様子

書籍紹介

地方再生のレシピ
食から始まる日本の豊かさ再発見



奥田政行　著
ミヤザキ　ケンスケ　絵
共同通信社（2015 年 10 月 27 日　第 1 刷発行）
定価：1,400 円＋税

本書には、「見た記憶、聞いた記憶を凌駕するのが味の記憶である。」とある。したがって、旅行者や観光者の記憶に残り、「誰かに話したい」、「また、行きたい」という気持ちにさせる食体験を提供することが重要である。そのためには、どこでも食べることができる料理や味を提供するのでなく、その地でとれた産物、物語を活かした料理の提供が必要であると本書にはある。普段何気なく食べている産物こそ地域の資源であり、それを活かしていくためには、その産物がどのようにしてその味になったのかを土地の気候、風土、歴史などから調べつくすことが重要である。イタリアンシェフである著者は自ら足を運び、その地の食材について細かく分析をしている。その過程で人脈が広がり、地域のことがよく見えるようになったとある。本書は地域資源を見つめ直し、掘り起こすヒントになると思う。地方創生、地域活性化の現場では、地域についてもっと深く知り、その土地のモノ、コトを活かしていくという姿勢が重要ではないだろうか。そうした姿勢は、住民からも受け入れられやすく、取り組みの継続に繋がっていくと考える。

本書にはこの他にも、著者と交流がある生産者の紹介や、行政・大学などの研究機関との連携といった、人と人をつなぐ重要性が書かれている。また、6 次産業化を成功させるための 5 か条や、売れない商品を売れる商品に変える打開策など、地方創生、地域活性化の現場で悩まれている課題に対しての助言や、実際に著者が考えたその地の産物を活かしたレシピも書かれている。食での町おこし実践者である著者が 20 年間学んだことが書かれており、幅広い層に対し参考になる一冊である。

地域ごはん日記
コミュニティデザイナーのおいしい旅



山崎　亮　文・絵
㈱パイ インターナショナル（2017 年 1 月 21 日発行）
定価：1500 円＋税

地域に訪れた際には、まち歩きや住民とふれあいながら、そのまちのことを理解していくが、まちの食事から学ぶことも多い。

例えば、ある地域では、居酒屋と行政のメンバーの仲が良く、気軽に食事や食材の持ち込みが許されており、食を通じて店や住民と交流ができている。そうした人間関係がまちの財産であり、まちづくりを支えていると山崎氏は述べている。また、とある離島では、島民にとって魚はありふれたものであり、魚以外の食に飢えていると山崎氏は考えている。その離島に滞在した山崎氏は数日の滞在後、島民が好んで食べるカレーを食し、地域の食べ物は単体としての価値を持つのではなく、地域における「味覚の生態系」の中にあって価値が見出されているとしている。

本書ではこのような、まちの味から感じられる地域の特徴を、様々な考察や地域づくりの視点で分析しながら、山崎氏の経験談を交え、丁寧に綴られている。

今や地域の食を活用したまちおこしや地域づくりが世間にあふれかえっている。例えば、これまでその地域でしか食べられなかった食を、おいしさと手軽さの両面に着目し、地域ぐるみでアピールするＢ級グルメはその最たるものであろう。それら地域独自の食を深化させ、食材の調達（川上）から、食の加工・提供（川下）まで、物語性や地域色を付与しながら、より地域の持つ食のポテンシャルを引き出そうとしている自治体も増えている。

本書は、山崎氏の鋭い分析を通じて、今まで自分たちでは気づかなかった地域の魅力、価値、人材の発見に重要な視座を養うことができる。

食をきっかけに地域をアピールしようと考える自治体や、地域で何か新しいことを学び取ろうと考える方にとって本書は非常に参考になる 1 冊である。

平成29年度地方成功人材のマッチングによる土日集中セミナー

民間の資金とノウハウを生かす 新たな官民連携

～SIBと公共空間利活用の手法を学ぶ～

地域活性化センターでは、土日でなければセミナーに参加することが困難な地域づくりに熱意のある方を対象に「地方成功人材のマッチングによる土日集中セミナー」を開催しています。

平成29年度第12回は、2月3、4日の両日、「民間の資金とノウハウを生かす新たな官民連携～SIBと公共空間利活用の手法を学ぶ～」をテーマに東京・日本橋の東京八重洲ホールで開催しました。

日本にも広がる社会的投資

SIBとは「Social Impact Bond」の略称です。教育や福祉などの社会的な課題の解決を図ると共に、経済的利益を追求する投資行動の手法の一つで、行政、民間事業者、資金提供者が連携して社会問題の解決を目指す成果志向の取り組みです。

まず、行政がNPO法人など社会的活動を行う団体へ事業を委託し、その団体は民間の資金提供者から調達した資金で事業を行います。事業完了後に評価を行い、目標を達成できた場合のみ行政から資金提供者へ報酬が支払われる仕組みです。2010年頃からイギリスで始まり、類似の社会的投資は日本でも広がっています。

セミナーでは、龍谷大学の深尾昌峰氏がまず、社会的投資を活用した持続可能な地域社会づくりについて講義し、SIBの概要に加え、イノベーションを誘発する資金調達の仕組みについて話されました。

次に厚生労働省政策企画官の野崎伸一氏が、同省のモデル事業の説明と地域共生社会の実現に向けた取り組みについて講義されました。

事業報告ではまず、横浜市の梅沢厚也氏から、市内の社会福祉法人が運営するコミュニティサロンにおいて、学習支援、生活支援、居場所づくりのサービスを子どもへ提供することにより、子どもの学習意欲がどの程度向上したかなどの成果を把握した上で、評価を実施しているとのお話をいただきました。この事業には、資金提供者として、世界的な金融グループである「ゴールドマン・サックス」が加わっています。一般的なSIBと違い、民間事業者からの寄付金を原資として実施しているということでした。

滋賀県東近江市の山口美知子氏からは、地域資源を生かして地域の困りごとをビジネスの手法で解決する事業者のスタートアップ支援事業を行っており、そこに成果連動型の補助金を導入しているとのお話をいただきました。まず、支援する事業を行政が採択した後、その事業者は市民を中心とした資金提供者から資金を調達します。そして、行政、事業者、専門家の三者合意で定めた年度内の目標を事業者が達成した場合にのみ、行政から資金提供者に対して報酬を支払う仕組みになっているとのことでした。

公共空間の利活用における官民連携

最後に、寺沢弘樹氏と飯石藍氏から、公共空間の利活用において、民間の資金やノウハウをどのように生かすかという講義が行われました。

自治体の財政が厳しさを増す中、行政だけで公共空間を維持することは難しいのが現状です。稼ぐことができる仕組みをつくっていかなければならず、そこで官民連携の手法が利用できます。具体的には、人が訪れたくなるような仕組みづくりを行うことです。公共空間が利用されると、その周辺エリアの価値が上がり、行政、民間、住民の満足度が高まります。

その成功事例の特徴としては、地域の実情や文化などを理解した上での検討ができること（地域住民が自分事としてしっかり考えられること）や行政内部における利活用の検討・決定プロセスが明確になっていることなどが挙げられました。



集合写真

◆講師

龍谷大学政策学部准教授　深尾 昌峰 氏
厚生労働省政策企画官　野崎 伸一 氏
横浜市政策局共創推進課長　梅沢 厚也 氏
一般財団法人東近江三方よし基金　山口 美知子 氏
特定非営利法人PFI・PPP協会業務部長　寺沢 弘樹 氏
公共R不動産コーディネーター／株式会社nest取締役　飯石 藍 氏

地域活性化センター広報室　元副参事　●稲葉 淳一

地方創生へ―ウッドスタート宣言　岐阜県大野町

Wood Start

子育て環境から「木育」を

―濃尾平野最北端の町から木育発信―



岐阜県大野町福祉課
子育て支援係
● 鈴村　美樹

自然豊かな町、岐阜県大野町

大野町は、岐阜県の西部、濃尾平野の最北端にあり、北は揖斐川連山を背にし、西に木曽川水系の一級河川である揖斐川、東にその支流の根尾川が流れ、秋には富有柿、春にはバラが咲き誇る水と緑に囲まれた自然豊かな町です。前方後円墳や円墳が密集する「野古墳群」など、歴史のロマンを感じる多くの遺産も豊富です。そして、道の駅「パレットピアおおの」が今年7月開駅に向けて最終調整段階にあり、平成31年度開通予定の東海環状自動車道の建設も進行している町です。

林業とは無縁のこの町で、平成25年度に県産材を利用した「幼児療育センターなないろ」を建設しました。さらに、平成26年度に県の「森林・環境基金事業」を活用して公立保育園に木のおもちゃを導入するなど、岐阜県が掲げる「ぎふ木育30年ビジョン」の中で、子育て支援策として「木育」を推進していくことになりました。



「おおの木育フェア2017」の様子
―木のおもちゃで遊ぶ来場者たち―



パーシモンブロック（1歳児への誕生祝品）



子育て支援施設内イメージ図

「おおの木育フェア」開催に向けて

平成27年度に隣町である揖斐川町にて「第39回全国育樹祭」が開催されたのを機に、森林や木の恵みに感謝すると共に、子どもをはじめ、すべての町民が「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みを進めたいと考えました。そこで、人と森林との関わりを主体的に考えられる人づくりを目指すため、子育て世代を中心に、町内外から多くの方が参加できる「おおの木育フェア」を開催しました。今年で4回目を迎えます。毎回、町内外から多くの来場者があり、町内のさまざまな企業や団体が参加して木の椅子などを製作するワークショップや東京おもちゃ美術館の「木育キャラバン」の木のおもちゃ広場、森の中の散策道を歩いて自然に触れ合う自然探索ツアーなど、いずれも大好評です。

保育教諭から「木育」発信を

イベントを通じてどのように「木育」を発信させようかと思案していく中で、町内の保育教諭らに協力を呼びかけました。まず「木育」について学んでもらい、フェアで開催する木のおもちゃ広場について何度も協議しました。常日頃から子ども達に接している先生方の意見は多彩で、子ども達の興味を誘うようなコーナーが出来、遊びに来た子どもだけでなく、保護者の方々や先生方までも一緒に楽しむことができました。年々、前年の反省点を生かしながら、より良いものになっています。また、それぞれの保育園等での生活の中にもこの経験を生かしてもらい、「木育」を徐々に取り入れつつあります。

子育て支援施設の開設で、さらに木育を身近に

平成29年3月に「ウッドスタート宣言」を行い、1歳児の誕生祝い品として、町の富有柿をモチーフにデザインした積み木「パーシモンブロック」を贈呈しています。積む・並べる以外に、表裏があることによってオセロや五目並べといった他の遊びも楽しめ、年齢を問わず遊べるようになっています。今年7月に開設を控えている子育て支援施設でも、東京おもちゃ美術館の監修によるたまごプールや滑り台、ボルダリング（柿）、マグネットパネル（バラ）などを導入し、町独自の空間を楽しめるよう、準備中です。この子育て支援施設を木のおもちゃで充実させることにより、より住民の方々に木育を身近に感じてもらい、推進していけたらと考えています。そして、将来も木や森とのつながりを持ち続け、様々な立場で岐阜県・大野町での産業面の応援団になることを期待します。

社会起業を通じて地域をつくる
―松下政経塾「ソーシャルイノベータープログラム」に参加して―

今回の「広報室だより」は、3月24日（土）の松下政経塾ソーシャルイノベータープログラム「～社会起業を通じて、地域をつくり、国をつくる～」への参加報告をお届けします。

松下政経塾とは

松下幸之助氏が世界の平和、国家の安定・発展を目指すリーダーを育てるために1979年に設立しました。これまでの卒塾生は270人ほどで、政治や経済、学術研究、マスコミなど各界でご活躍されています。

ソーシャルイノベーションと松下幸之助

株式会社PHP研究所取締役・専務執行役員の永久寿夫氏が以下のお話をされました。現在は価値観や課題が多様化しているため、行政による解決力が追い付かない。そのため、市民活動が解決する時代になっており、公や民だけでなく、政府に依存せず課題をわが事として工夫して解決する「社会起業」が有効であるということでした。


松下政経塾正門


集合写真

ソーシャルイノベーター Ta－ks

次に、実際に社会起業されている3人の実践事例を聞きました。

1人目は、オマツリジャパン株式会社代表取締役の加藤優子氏です。日本には約30万件のお祭りがあり、これは1日平均800件開催されている計算になります。お祭りは、生きがいや伝統的なコミュニケーション、地域文化社会の中心的活動という一方、次世代の担い手不足という課題があります。地域のために行動したい若者がいるが、どう関わっていいか分からない人が多いため、祭りを通じてその人たちを地域とマッチングさせ、地域を盛り上げる活動を行っているというお話でした。

2人目は、猪鹿庁長官の興膳健太氏です。里山保全と漁師の6次産業化を目指して活動し、インターネットのクラウドを使用したハンター体験を通じて、地域のファンづくりを行い、地域との関わりを持っていく中で、本当に里山保全などその地域に興味を抱いた人は移住にまで繋げていきたいというお話をしていただきました。

3人目は、一般社団法人防災ガール代表理事の田中美咲氏です。田中氏は、日本は世界的に見ても災害が多い国であるため、復興はもちろん、防災にも力を入れなければならないと考え活動されています。今ある防災も大切だが、今の防災の形を当たり前と思わず考え直し、若者の無関心を解決するために、自分が媒介となり「ついついやりたくなる防災」を実現していきたいと話されました。

ソーシャルビジネス講座とグループワーク

次に、INSPIRE代表理事の谷中修吾氏から様々な地域と関わっていく中で、社会起業の方法が共有されておらず、多くの人が同じ課題に直面していると感じ、課題の定義と解決策の構築を目指し活動しているというお話をいただきました。

グループワークでは、①解決手法に意外性を持たせる②POP感を持たせる③プラットフォーム化する、という3つの解決策のポイントを押さえた上で、「『地域づくりの担い手を確保する社会起業のビジネスアイデア』を提案すること」というお題が出されました。各グループでは、田舎がない人を対象とした田舎の模擬家族体験や、提供するサービスや、空き家を活用したコワーキングスペースの学校版となるサテライト大学などのアイデアが提案されました。

最後の講評では、永久氏から①どこからの目線で考えるか、現場のニーズを見て、話をして把握する努力をすること②個々にとってのメリットではなく、全体最適で考えること③行政を仲間にしてビジネスすること、など社会起業する際のポイントのお話をいただき、社会起業における重要なポイントを数多く教えていただいたプログラムとなりました。

地域活性化センター広報室
●篠原　歩（那珂川町から出向）

首長の思い
column



市民総参加型のまちづくり

三島市長　豊岡武士

静岡県の東部、富士箱根伊豆国立公園の玄関口に位置する三島市は人口11万人余り。伊豆一宮である「三嶋大社」を中心に、古代・中世には伊豆の国府が置かれ、江戸時代には東海道五十三次の一つ「三島宿」として賑わった長い歴史のあるまちです。また、新幹線ひかり号で東京・品川駅から最短37分という好立地でありながら、湧水が街中を流れ、三島駅から徒歩5分で蛍に出会える素晴らしい環境を有しております。

私が市長に就任しました平成22年当時、本市は高齢化による扶助費の増加、若者の転出超過等による人口減少、地域産業における製造品出荷額の落ち込みなど地域課題が山積しておりました。これらの課題解決に向け、私は市内部の政策推進のための組織を確立し、併せて市民との協働によるまちづくりを基本方針として行政運営を行って参りました。

特に、市民との協働では、人も街も産業までも「健幸」を実感できるまちづくり「スマートウエルネスみしま」と、水や緑、富士山の景観など、昔からの三島の宝に、新たに「花」という癒しの彩りを添え、観光振興・産業振興につなげる「ガーデンシティみしま」を軸に施策を展開してきました。

「スマートウエルネスみしま」は、「健幸」をキーワードに地域活性化を同時に図ることを目的としたものです。具体的には、健康づくりへのインセンティブとなる「健幸マイレージ」事業、健康総合企業の㈱タニタとの協働による「みしまタニタ健康くらぶ」の発足、街中の健幸拠点施設「みしま健幸塾」の開設等に取り組んでおり、自発的な健康づくりが進められています。

さらに、街中で健幸プログラムを提供する「みしま健幸大学」の開講、居酒屋などに保健師や栄養士が出向き指導する「出張！『健幸』鑑定団」、健康に関する正しい知識を広めていく「健幸アンバサダー」養成事業など、健康に無関心な方にも響く取り組みを行っています。

今後もこれらの事業に取り組み、健康観光の推進や社会保障費の減少に繋げて参りたいと考えております。

「ガーデンシティみしま」では、ガーデニング等を通じたコミュニティの復活、地域の活性化につなげ、誰もが「三島に住みたい、訪れたい」と感じてもらえる魅力あるまちづくりを市民・NPO・事業者の皆さんと行政が協働で推進しています。ガーデンシティみしまを推進していくため、平成23年度に「ガーデンシティみしま推進会」を設立しました。設立当時、66団体だった会員数も現在では132団体に増え、ゴミ拾いツアーや各種イベントへの参加等に取り組んでいます。また、平成24年度に「花サポーターみしま」が発足し、中心市街地の「街路灯花飾り」の維持管理などを現在69人のボランティアが行っています。

こうした取り組みにより、休日に街中を散策する市民や観光客が大幅に増え、空き店舗がほとんど無い状況で、来訪者の皆様から「三島は元気があるね。」と言われるまでになりました。お蔭様で本市は昨年、「ふるさとづくり大賞」と「地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰」を受賞することができました。

平成30年度は、協働のまちづくりをさらに推進していくため、地域活性化センターの「がんばる地域応援事業」に採択をしていただく中で、市職員と民間企業の核となる人材を育成する「三島の未来を担う人づくり事業」に取り組んで参ります。

今後もこれらの取り組みを継続して行い、「住んでいる人も訪れる人も癒され、誰もが健康で幸せを実感でき、市民一人ひとりが心から誇りと愛着を持てるまち三島」を目指していきたいと考えています。

手前みそですが…

香川県

三豊市 231

山・海・里が豊かな三豊



■父母ヶ浜
遠浅のロングビーチが続き、干潮時にできる水たまりが水鏡のようになる。まるで南米のウユニ塩湖のような幻想的な光景に

三豊市は香川県西部にあり、瀬戸内海の島しょ部から讃岐山脈の山間部まで含む穏やかな田園都市です。瀬戸内独特の温暖な気候により、フルーツや花卉、お茶の栽培が盛んで、マーガレットの生産は全国１位を誇り、特産のみかんやぶどう、桃なども甘く高品質です。

三豊市では、国立公園である瀬戸内海の風景をはじめ、海外からも人気が高い紫雲出山の桜、インスタ映えとして注目を集める父母ヶ浜、特色ある島々など、１年を通して四季を感じながら絶景が味わえます。

また、多様な文化を感じる史跡や祭りが数多く残っています。国宝である四国霊場の寺院のほか、浦島伝説の残る荘内半島、藤原宮の瓦窯跡など、長い歴史の移ろいを市内で実感できます。一方で、カヤックやＳＵＰ（スタンドアップパドルボード）などのマリンスポーツ、サイクリング、ハイキングなど、県内でもアウトドアが盛んな地域になります。

年配の方から若者まで、のんびり楽しめるまちです。



■曽保みかん
海に面した急こう配のみかん畑は美しい。１つ１つ袋をかけて育てる高級みかんは、都心でも 10 年以上売上げトップクラス



■フラワーパークうらしま
生産量が全国1位のマーガレットは、「落ちない花」として市内の受験生に人気。また、「恋占い」の花として、恋人へのプレゼントにもぜひ！



■志々島の大楠
島の中心に位置する大楠。樹齢 1200 年以上で、島の守り神として大切に保存されている。穏やかな離島だが、近年移住者が増加中！



■紫雲出山の桜
千本桜が山頂を覆う。瀬戸内海とあわせて桜が楽しめる絶景スポット。交通規制がしかれる程の人気なので、アクセスにはご注意を



■四国霊場
市内に３つの霊場がある。写真の本山寺は、本堂が国宝に、五重塔は国の重要文化財に指定されている



■仁尾竜まつり
雨乞いの意味を込めて藁で巨大な竜を作り、水をかぶせながら町内を練り歩く。担ぎ手の飛び入り参加歓迎！ H30.8.4 開催



■津嶋神社
年に一度の夏祭りのときのみ、社までの橋がかかる。子供の守り神で、毎年多くの親子連れが訪れる。「夏季大祭」H30.8.4-5 開催



■蔦島
渡船で５分の無人島。毎年６月には、アウトドアのイベントも開かれるほか、多くの海水浴客でにぎわう。「瀬戸内 DAYOUT」H30.6.9-10 開催

地域づくり５月号

2018 年 5 月 1 日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター
東京都中央区日本橋 2-3-4 日本橋プラザビル 13 階 電話 03-5202-6131（代）https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

法律で許可された場合以外に本誌からの無断転載を禁止します
落丁・乱丁はお取り替えします。地域づくり情報課（03-5202-6138）まで、ご連絡下さい。

地域づくり5月号（通巻347号）　平成30年5月1日　一般財団法人　地域活性化センター発行

宝くじは、
みなさまの豊かな暮らしに
役立っています。



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や
災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちで、みなさまの暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
http://jla-takarakuji.or.jp/

地域づくり

特集編（2018.5）

ISSN 1340-8917

特集　平成29年度ふるさとイベント大賞

表2	●大賞（内閣総理大臣賞）	刈谷万燈祭	【愛知県刈谷市】
2	●最優秀賞（総務大臣表彰）	ゲレンデ逆走マラソン	【福島県猪苗代町】
4	●ふるさとキラリ賞	八戸工場大学	【青森県八戸市】
6	●ふるさとキラリ賞	木頭杉一本乗り大会	【徳島県那賀町】
8	●優秀賞	城下町しばた全国雑煮合戦	【新潟県新発田市】
9	●優秀賞	飯塚新人音楽コンクール	【福岡県飯塚市】
10	●優秀賞	日向ひょっとこ夏祭り	【宮崎県日向市】
11	●選考委員特別賞	潮来の嫁入り舟	【茨城県潮来市】

●次点＜22団体＞

12　ふるさと百餅祭り【北海道岩見沢市】
13　市場で朝めし。2016【宮城県気仙沼市】
14　マタギの里 小玉川雪まつり【山形県小国町】
15　吉川八坂祭り【埼玉県吉川市】
16　古利根川 流灯まつり【埼玉県杉戸町】
17　越後・謙信 SAKE まつり 2016【新潟県上越市】
18　能登小木港 イカす会 2017【石川県能登町】
19　和田 de 路地祭【福井県高浜町】
20　宿場町のクラフトフェア・木曽の手仕事市【長野県木曽郡木曽町】
21　高山城 戦国合戦まつり【岐阜県土岐市】
22　中山道灯り路【滋賀県東近江市】
23　竹の径・かぐやの夕べ【京都府向日市】
24　城東区 SARUGAKU 祭 ～こどももおとなも全員集合‼～【大阪市城東区】
25　オータムフェスティバル in 龍野【兵庫県たつの市】
26　古都飛鳥文化祭【奈良県明日香村】
27　2016 第５回益田 INAKA ライド【島根県益田市】
28　矢掛の宿場まつり 大名行列【岡山県小田郡矢掛町】
29　餅ひろい 世界選手権【山口県山口市】
30　第 21 回 宇佐大鍋まつり【高知県土佐市】
31　2016 国際渓流滝登り in ななやま【佐賀県唐津市】
32　五島の灯まつり【長崎県新上五島町】
33　職人フェスティバル【大分県中津市】

2018 年５月１日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター　©2017 jcrd.jp
東京都中央区日本橋 2-3-4 日本橋プラザビル 13 階 電話 03-5202-6131（代）https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです







評価のポイント

●200年以上の歴史と伝統があり、天下の奇祭とよばれる独特な祭りである。
●「万燈」とよばれる張子人形は竹と和紙でつくられており、5メートルほどの大作を1人で担ぎ舞い踊るという貴重で伝統的な祭りであり、町会ごとに万燈が製作され、官民一体となって祭りを盛り上げている。
●観客数は2日間で10万人以上と多くの人を魅了している。
●市内の小学校で、万燈祭を教材で取り上げ、万燈祭の歴史を学ぶ機会を創出するなど、次世代への伝統文化継承に取り組んでいる点が評価できる。
●「万燈」の製作を通じて、伝統技術を継承し、地域住民の連帯の強さを感じる。
●氏子7町や地元企業も一体となって祭りを盛り上げている。
●毎年新作がつくられ、東京や大阪などへ出演し、市内外へも積極的に発信している。

次回開催日程

■開催日：平成30年7月28日（土）、29日（日）　■開催場所：刈谷市中心部（秋葉社周辺）
■問い合わせ先：
・団 体 名　刈谷市観光協会
・住　　所　〒448-8501　愛知県刈谷市東陽町1丁目1番地
・電話番号　0566-23-4100　・URL　http://www.kariya-guide.com/

大賞

第22回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

刈谷万燈祭





【由来】
愛知県の無形民俗文化財に指定されている「万燈祭」は、刈谷市銀座にある秋葉社の祭礼で、江戸時代中期から二百有余年続く、火難防除と町内安全を祈願するお祭りです。
宝暦6年（1756年）に火伏せの神をまつる秋葉堂（現：秋葉社）が建立され、その翌年から祭礼が行われました。安永7年（1778年）には笛や太鼓にあわせて「万燈（まんど）」が登場し、昭和の初期頃からは「万燈祭」と称され現在まで引き継がれています。

【万燈とは】
万燈は、竹と和紙で作られた張子人形を色鮮やかに彩色したもので、多くは歌舞伎絵や武者をかたどっています。大きなものは高さ約5メートル、幅約3メートル、重さは約60キロにもなり、これを若衆が一人ずつ交替で担ぎ、笛や太鼓のお囃子に合わせて舞い踊ります。各町の大万燈は、毎年新作が製作されます。何カ月も前から各町内の人々が製作に携わり、どれも力作揃いです。遠くから見ても、近くから見ても、迫力と緻密さが感じられます。

【お祭】
現在の祭礼は、7月最終土曜日と翌日の日曜日の2日間開催され、初日を「新楽（しんがく）」、2日目を「本楽（ほんがく）」と呼んでいます。新楽は、氏子7町（銀座、司町、新栄町、寺横町、東陽町、広小路、広小路五組）に加え、市内の企業や地区も参加し、十数基の大万燈と多数の子ども万燈が市内を練り歩き盛大に行われます。また、本楽では氏子7町の万燈が秋葉社の境内で舞を奉納する神前舞も披露されます。
氏子7町に加え、地域の住民と地元企業が連携し、総勢約2000人が祭りに参加しています。また、毎年、市内外から2日間でおよそ10万人の来場者があります。
県外のイベントにも出演しており、平成11年には「天皇陛下御即位十年をお祝いする国民祭典」、平成21年には「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典」、平成29年1月には「ふるさと祭り東京」、平成29年5月には「‘17食博覧会・大阪」に出演しました。

主催者メッセージ



日が沈み、色鮮やかな万燈に火が灯り、真夏の宵闇に浮かび上がる万燈が舞い踊る様は実に勇壮で、まさに天下の奇祭と呼ぶにふさわしいお祭りです。新楽に行われる「一斉舞」では、約20基の万燈が一堂に集まり華やかに行われ、本楽に行われる「神前舞」は、厳かに披露され、見る人の心を魅了します。

刈谷万燈保存会
会長
加藤 繁則さん

開催DATA

自治体名	愛知県刈谷市
自治体人口	約15万人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	刈谷万燈保存会、刈谷市観光協会
開催回数	—
開催日	7月最終土曜日とその翌日
開催場所	刈谷市中心部（秋葉社周辺）
観客数	118,000人（平成29年実績）







評価のポイント

●東日本大震災以降のスキー客離れの中、スキーリゾートの賑わいを取り戻そうと始まった、オフ期のゲレンデをつかったユニークなイベントである。
●スキー場のゲレンデを下から駆け上がるのは、奇抜でありながら創意工夫が顕著である。
●地域資源をうまく活用しており、1カ所だけでなく、連続的に異なったスキー場で開催されており、競技も複数あって面白い。
●逆走マラソンがあるから、福島に足を運ぶランナーが増えてきていて、独創性に優れ、新たな地域の魅力を創り出している。
●継続して開催されており、多くのランナーに支持されている。
●6スキー場各社が協力し、連携して取り組んでいる。

次回開催日程

■開催日：平成30年5月6日～10月20日迄6レース
■6スキー場（猪苗代リゾート、リステル、箕輪、沼尻、ばんだい×2、猪苗代）
■問い合わせ先：
・団 体 名　GAMBARUZO!ふくしま実行委員会
・住　　所　〒969-2696　福島県耶麻郡猪苗代町川桁ホテルリステル猪苗代内
・電話番号　0242-67-4110　・URL　http://www.gambaruzo.jp/

最優秀賞

第22回
ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

ゲレンデ逆走マラソン

震災以降、風評被害に悩んでいた私たちは、「GAMBARUZO!ふくしま実行委員会」を立ち上げ、モーグルのワールドカップを毎年開催していたリステルスキーファンタジア(福島県猪苗代町)で、ゲレンデを逆走するという奇抜なマラソンを企画し、安心・安全を全国にアピールしようと試みました。平成23年6月5日に開かれたこのマラソンは「下からゲレンデを駆け上がる」という前代未聞のレースながら「馬鹿らしいけど面白い」と参加ランナーからお褒め(?)の言葉を頂戴しました。それで自信を得た私たちは「ゲレンデ逆走マラソン」と銘打ち、表磐梯にある5スキー場(猪苗代リゾートスキー場、リステルスキーファンタジア、沼尻スキー場、ばんだい×2スキー場、猪苗代スキー場)と手を組みシリーズ戦へと駒を進めたのです。しかし、全くノウハウを持たない私達は、初年度8戦を開催して400人強、続く平成24年も400人程度の参加数と苦戦し、私たちが目指した結果は得られず惨敗の2年間を過ごしました。ところが、3年目となる平成25年から状況が少しずつ変化して参ります。

各ゲレンデの特徴を生かしたレース、そして、地域の温泉施設が選べる「入浴券付き」等々、この2年の反省を生かした魅力ある「逆走マラソン」作りに着手しました。その結果、その年は全5戦ながら延べ800人のアスリートを集めました。翌年、新たに箕輪スキー場が加わり、逆走マラソンは6スキー場での開催へと拡大。この年の参加ランナーは、延べ1200人強となっていました。そして平成27年は1500人を超え、平成28年・平成29年は1600人超えを果たし、着実に毎年参加ランナーを増やし続けて参りました。

いつからか参加ランナーは、「逆走マラソンがあるから、福島に足を運ぶ」という、私達の最も望んでいた形になっていました。そこには、原発事故という弊害は一切ありません。私たちは、そんなランナー達を温かく迎え、励まし、楽しんでもらうよう努めて参りました。

これからも、多くのランナーに愛され、そして支持され、選手と共に成長する、そんな魅力ある逆走マラソンを追求して参りたいと思います。

主催者メッセージ



風評被害に苦しんでいた磐梯高原6スキー場が、かつての賑わいを取り戻そうと、オフシーズンのゲレンデを駆け上がるというユニークなマラソンを企画しました。当初こそ思うようにランナーが集まらず苦戦しましたが、徐々にファンが増え、これまで43戦を開催。今回の受賞で、私達の活動がご評価をいただけたと嬉しく思っております。

GAMBARUZO!ふくしま実行委員会
事務局長
佐藤 勇一さん





開催DATA

自治体名	福島県猪苗代町
自治体人口	14,641人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	GAMBARUZO! ふくしま実行委員会
開催回数	43回
開催日	平成29年4月29日～10月21日迄6レース
開催場所	6スキー場(猪苗代リゾート、リステル、箕輪、沼尻、ばんだい×2、猪苗代)
観客数	1,787人(2017年総エントリー数) 1,635人(総参加数)※観戦・応援者除く







評価のポイント

●東北屈指の工業都市として発展してきた八戸市は、工場を地域資源として捉え、大学のように講義、課外活動、サークル活動など創意工夫している。
●講義では、工場が持つ多様な魅力に着目し、地元の工場への理解や親しみを深めている。
●小規模でありながら、八戸市の職員が企画・運営・集客し、工場、市民、アーティスト等が協働でアートプロジェクトを実施することで、市民の誇りを喚起しその魅力を市内外に発信している。

次回開催日程

■開催日：平成30年8月～平成31年3月（予定）　■開催場所：八戸市内（予定）
■問い合わせ先：
・団 体 名　八戸市まちづくり文化推進室
・住　　所　〒031-8686　八戸市内丸1-1-1
・電話番号　0178-43-9156　・URL　http://www.8kojyodaigaku.com/

ふるさとキラリ賞

第22回
ふるさとイベント大賞

八戸工場大学

八戸市は、海から拓け、海とともに発展してきたと言われ、臨海部には多様な工場群が連なります。東日本大震災では、多くの工場が甚大な被害を受けました。

しかし、1日も早い復旧に向けて取り組み、操業を始めた工場を見て、多くの市民が元気をもらいました。

八戸工場大学は、自分たちのまちの工場を、景観、まちづくり、観光、文化、産業などの視点から多角的にとらえ、また、新しい視座と気づきをもたらしてくれるアートを組み合わせることで、工場の魅力や価値を再発見し、発信していく事業で、工場好きの市民、企業、アーティスト、行政が連携して運営しています。

活動は、工場の職員や、工場景観の専門家、アーティストを講師として招き、多様な切り口から工場を学ぶ「講義」、工場を見学する「課外活動」、アートプロジェクトを実施する「サークル活動」の3本柱です。

工場が元気であること、工場のまちとして誇れること、それが八戸の力です。

アートで工場の魅力にせまり続けます。





主催者メッセージ



八戸工場大学は工場のことを学びながら、工場とアートを組み合わせて新たな魅力を探るユニークな事業です。今後は、役目を終えて解体される、八戸で一番高い工場の煙突に別れをつげるイベントを計画しています。屋形船や観光遊覧船では、海から工場景観を見るコースもありますので、ぜひ、当市へお越しください。

八戸市
芸術環境創造専門員
大澤 苑美さん

開催DATA

自治体名	青森県八戸市
自治体人口	232,361人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	八戸市
開催回数	5回
開催日	通年（講義：平成28年8月24日～12月15日の内隔週6回、課外活動:平成28年9月10日、10月15日、サークル活動：平成28年11月18～20日、平成29年1月13～15日）
開催場所	八戸市内
観客数	受講生各回30人×6回、イベント集客推定500人







評価のポイント

●運搬方法が変わった現在、技の伝承と町おこしのために、誰でも参加できる体験型イベントとして開催している。
●地域住民が郷土料理を提供し、一本杉乗りの名人の称号をもつ住民が講習会を開催するなど、創意工夫を凝らし、集客拡大につなげている。
●継承が難しい古来の技を守り伝えながら、郷土愛の醸成につなげている。

次回開催日程

■開催日：平成30年7月29日（日）予定
■開催場所：徳島県那賀郡那賀町木頭和無田（木頭診療所前の河川）
■問い合わせ先：
・団 体 名　那賀町役場木頭支所
・住　　所　〒771-6402　徳島県那賀郡那賀町木頭出原字マエダ34番地
・電話番号　0884-68-2311　・URL　http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/

ふるさとキラリ賞

第22回
ふるさとイベント大賞

木頭杉一本乗り大会

かつて、木頭の名産「木頭杉」は、那賀川の流れに乗せて川下へ運びました。そこで育まれた、丸太に乗り急流を下る伝統の技“一本乗り”。

道路の整備により運搬方法としての一本乗りは途絶えましたが、技の伝承と町おこしのため、体験型イベント「木頭杉一本乗り大会」が始まりました。

水に浮かぶ丸太に立てば10級、50メートル下れば4級、激流の名人コースを下りきれば名人と、試技により段位が認定されます。

竹ざおを手に長さ4メートルほどの丸太に乗るだけというシンプルな競技。

100人を超える参加者の多くはリピーターです。前回の悔しさを胸に自己記録の更新を狙います。

大会前の約1カ月。週末毎に講習会が開かれるのも特徴の一つ。講習会では､地元の「名人」が直接指導してくれます。

地元にもすっかり定着したこのイベント。会場設営は地元の建設会社、出店は婦人会と住民総出で大会を盛り上げます。

アメゴバーガー、ゆずサイダーといった地元グルメも大人気です。

主催者メッセージ



「お祭り」ではなく「競技」としての側面を持つこのイベント。昨年の観覧者が、今年の挑戦者ということもしばしば…。

那賀ブルーの清流は、乗り切れば至上の喜び、たとえ落ちても、無類の爽快感!

特産の木頭ゆずを使ったゆずサイダー、渓流の女王・アメゴを使ったアメゴバーガーなど会場で味わう地元グルメもおすすめ♪

木頭杉一本乗り実行委員会
会長
福井 功さん





開催DATA

自治体名	徳島県那賀町
自治体人口	8,588人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	木頭杉一本乗り実行委員会
開催回数	29回
開催日	平成28年7月31日
開催場所	徳島県那賀郡那賀町木頭和無田（木頭診療所前の河川）
観客数	約300人

優秀賞

第22回
ふるさとイベント大賞

城下町しばた全国雑煮合戦

毎年1月の寒い中に屋外で行う、新発田の冬の風物詩となったイベント。全国各地の伝統的な雑煮や趣向を凝らした創作雑煮が一堂に会し、地元の伝統的な具沢山雑煮「しばた雑煮」と日本一の雑煮を競い合います。一般来場者による投票と特別審査員によるポイント制で優勝雑煮(=征夷大将軍)を決定します。

使用する餅は地元の子ども達が田植えや稲刈りを行った新発田産の最高級「こがねもち」を使用しています。 寒い中食べるアツアツのお雑煮は絶品です。

近年では、会場を中心市街地である商店街に移し、市街地の活性化に貢献できるよう取り組んでいます。

また、環境配慮型イベントを目指して、リサイクル可能な内フィルムを剥がすタイプの容器を使用し、残飯の堆肥化などを行い、ゴミの縮減に努めるとともに、無料シャトルバスを運行しパークアンドライド方式による排気ガスや燃料の抑制に配慮しています。

イベントの定着化に伴い、新発田市伝統の具だくさん雑煮を参考に、レトルト雑煮が開発され、新発田のお土産品として好評価を得ています。







開催DATA

自治体名	新潟県新発田市
自治体人口	98,912人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	新発田商工会議所青年部
開催回数	13回
開催日	平成29年1月8日（日）
開催場所	新発田市新市庁舎（ヨリネスしばた）
観客数	25,000人

主催者メッセージ



「伝統」「洋風」「スイーツ」などバラエティ豊かでオリジナリティあふれるお雑煮の中から自分のお気に入りの雑煮を探すのが醍醐味の１つです。

他にも、雑煮合戦の広告塔となる「看板娘」を決める「看板娘コンテスト」や、毎年好評を得ている「もちまき」など、付帯イベントも盛り沢山です。

新発田商工会議所青年部
平成28年度 会長
武田 昌宏さん

評価のポイント

- 国内最大級の雑煮イベントであり、全国各地の雑煮が楽しめる。
- 会場を中心市街地である商店街で行い、市街地の活性化に貢献している。
- 1月はイベントが少ない時期でありながら、独自性が高く創意工夫されている。
- 稲作が盛んな新発田市で雑煮餅のもち米を地元の子どもたちとその保護者が手植えし、秋に収穫した最高級新潟産「こがねもち」を使用し、地元の企業が餅に加工するなど地域が積極的に参加している。
- イベントの運営にボランティアとして市内の大学生や高校生が協力し、地域とかかわりを持ってイベントを開催している。
- 環境配慮型イベントを目指し、たい肥をつくり、「こがねもち」の栽培に利用するなど、食の循環に着目した取り組みを行っている点も評価できる。

次回開催日程

■開 催 日：平成31年1月13日（日）
■開催場所：新発田市内
■問い合わせ先：
・団 体 名　新発田商工会議所青年部　事務局
・住　　所　〒957-0053　新潟県新発田市中央町4-10-10
・電話番号　0254-22-2757
・ＵＲＬ　http://zonigassen.com

優秀賞

第22回
ふるさとイベント大賞

飯塚新人音楽コンクール

毎年5月に予選、6月に本選を開催する若手音楽家の登竜門「飯塚新人音楽コンクール」。ピアノと声楽の2部門に分かれ、全国各地から集まった精鋭たちが競い合います。昭和57年から36回の開催を重ねましたが、きっかけは「飯塚に良いピアノを」と市民からの募金をもとに購入した名器スタインウェイでした。「旧産炭地」というイメージをこの活動によって払拭し、「文化都市飯塚」に向けて舵を切りました。準備期間を経て、飯塚市制50周年記念イベントとしてスタートしましたが、今では日本有数の優れたクラシックコンクールへと成長し、飯塚市の音楽文化の礎となっています。

受賞者はその後、国内のみならず世界へ羽ばたき、目覚ましい活躍をみせています。

厳粛な雰囲気の中で行われる真剣勝負はコンクールならではの面白さです。未来のスターたちのハイレベルな挑戦を目の当たりにする絶好の機会として、長きにわたり多くの観客を魅了し続けています。



主催者メッセージ



飯塚文化連盟
会長
藤木 徹雄さん

若手音楽家たちが人生をかけて舞台に立つ姿はとても凛々しく、また素晴らしい演奏は胸打たれるものです。

裏舞台では参加者が演奏だけに集中できるよう、たくさんの市民ボランティアがきめ細やかに運営を支えています。市民に愛され、大切に育まれた「小さな街の大きな宝」をぜひご堪能ください。ボランティアスタッフが笑顔でお迎えします。

評価のポイント

- クラシック音楽部門におけるピアノ・声楽を専攻する新人演奏家としての登竜門になっている。
- 昭和57年から36回の開催を重ね継続しており、全国から精鋭が集まり、優れたクラシックコンクールへと成長してきている。
- 市内の音楽サークルを中心とした市民ボランティアが出演者の案内を担当し、運営を支えている。
- 予選・本選に集まった1,500人以上の入場者は地域に根付いたイベントとして音楽文化の興隆に寄与している。
- 予算面においては、市民のピアノ購入運動によって集まった寄付金を使って購入したピアノを使用している。
- 市民が自宅のピアノを提供して練習できる体制を整えている。
- コンクールをきっかけに飯塚の認知度を高め、交流人口の増加に寄与している。

次回開催日程

■開 催 日：予選：平成30年5月3、4、5日
本選：6月3日　入賞者招待演奏会：10月6日
■開催場所：飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）
■問い合わせ先：
・団 体 名　飯塚文化連盟
・住　　所　〒820-0041 福岡県飯塚市飯塚14-67 イイヅカコミュニティセンター内
・電話番号　0948-22-3274
・ＵＲＬ　http:www.iizuka-bunren.com/





開催DATA

自治体名	福岡県飯塚市
自治体人口	129,801人　※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	飯塚文化連盟、朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、飯塚市、飯塚市教育委員会、九州山口音楽協会
開催回数	第36回
開催日	予選：平成29年5月3、4、5日 本選：6月4日　入賞者招待演奏会：10月7日
開催場所	飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）
観客数	1,502人

優秀賞

第22回
ふるさとイベント大賞

日向ひょっとこ夏祭り

日向ひょっとこ夏祭りは、明治時代末期に日向市塩見の永田地区で考案された「永田のひょっとこ踊り」を伝統芸能として保存し、全国的に広めるために始められた祭りです。

当祭りは昭和59年（1984年）より毎年開催しており、年々参加者が増加し、今では全国各地から2000人を超えるひょっとこ踊り愛好家が集まる夏の一大イベントとなっています。

祭りは8月の第1金曜日と土曜日に開催しています。前夜祭ではひょっとこ踊りの技能を競う個人戦、本祭りでは市街地でのパレードが行われます。日向市の市街地がひょっとこの赤着物一色で染まる様子は圧巻です。

軽やかなリズムと面白おかしいきつね・おかめ・ひょっとこの面をかぶった踊り手の動きが魅力的で、観客の笑顔があふれる祭りとなっています。踊り手は、現在では地元宮崎県以外28都道府県からの参加があり、将来は全国47都道府県まで参加者が増大することを目標としています。







主催者メッセージ



日向ひょっとこ踊りの源流となる「永田のひょっとこ踊り」は五穀豊穣と子孫繁栄を祈願する伝統芸能です。きつね・おかめ・ひょっとこが大勢連なってリズム良く踊る様子が日向市の夏の風物詩となっています。踊り手と観客が触れ合える愉快な祭りです。踊りだけでなく笑いの中に自身を置くだけでも幸せになるお祭りです。

日向ひょっとこ夏祭り
実行委員会事務局
（一社）日向市観光協会
専務理事・事務局長
山本 達雄さん

評価のポイント

- 地域を代表する「永田のひょっとこ踊り」は伝統芸能として保存、伝承され、全国に広めるために始められた。
- 北は北海道から南は鹿児島まで全国各地から2000人を超える踊り手が参加し、観客動員数は日向市の人口を超える74000人が集まるイベントとなっている。
- 赤着物の揃いの衣装で、きつね・おかめ・ひょっとこ面を被って、面白おかしく動かす振付と踊りはユニークで、多くの人を惹きつける魅力がある。
- 国内のみならず、ネパールやスペイン、韓国や台湾などで踊りが披露されるなど、海外からも注目されており、さらなる交流人口の増加を通じた地域活性化が期待できる。

次回開催日程

■開 催 日：8月3日（前夜祭）、8月4日（本祭り）
■開催場所：日向市駅前交流広場及び中心市街地
■問い合わせ先：
・団 体 名　日向ひょっとこ夏祭り実行委員会　事務局
・住　　所　〒883-0014　宮崎県日向市原町1-2-1-101
・電話番号　0982-55-0235
・ＵＲＬ　http://www.hyottoko.jp/

開催DATA

自治体名	宮崎県日向市
自治体人口	62,314人　※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	日向市（主管:日向ひょっとこ夏祭り実行委員会）
開催回数	34回（2017年時点）
開催日	毎年8月第1金曜日・土曜日
開催場所	日向市駅前交流広場及び中心市街地
観客数	74,000人（第33回） 65,000人（第34回：台風のため減）

選考委員特別賞

第22回 ふるさとイベント大賞

潮来の嫁入り舟

水郷地帯だった潮来は、昭和30年代まで町中に水路が張り巡り、嫁入り道具を積んだ和舟の花嫁さんは普通に見られた光景でした。現在は毎年6月に行われる水郷潮来あやめまつりにおいて「潮来の嫁入り舟」としてその姿を今に伝えています。このイベントは公募で選ばれた本物の新婚夫婦が主役。大勢の観光客に祝福されながら手漕ぎの和舟に乗り込んだ花嫁は下流で待つ花婿の元へ向かい、愛を誓い合います。土曜日の夜には「宵の嫁入り舟」と称して地元潮来の祭り囃子の奏者たちが乗る「芸座舟（げざぶね）」が花嫁の乗る舟に付き添い、まるで江戸時代にタイムスリップしたような幻想的な雰囲気が大変好評を博しています。潮来独自の婚礼文化を今に伝えるこのイベントは官民協働で行われており、潮来市を代表するイベントとして市民に愛されています。最近は海外からの観光客も魅了するなど今では潮来の初夏を代表する一大行事となっています。

主催者メッセージ



「潮来の嫁入り舟」は水郷潮来の初夏を彩るあやめまつりのメインイベントとして、官民協働で長きにわたり行われてきました。花嫁の白無垢の美しさやゆっくりと進む手漕ぎのろ舟の和の趣きは、古き良き日本情緒や水郷地帯独自の婚礼文化を今に伝える貴重なイベントです。花嫁さんに会いにぜひ潮来にお越しください。

潮来市
市長
原 浩道さん

評価のポイント

- 舟で嫁入りを行っていたという歴史的背景を活かし、古き良き日本文化を伝えている。
- 毎年80組以上の新婚夫婦から応募があり、選ばれた29組の夫婦が「嫁入り舟」に参加している。参加したお嫁さんからの「潮来花嫁さん」を志望した想いに感動した。
- 主役となった大勢の観光客に祝福されながら、幻想的な雰囲気のなか、潮来独自の婚礼文化を伝える貴重なイベントとして市民に愛されている。
- 来場者82万人の「水郷あやめまつり」において特に人気の高いイベントで、特産品の販売などを通じた経済効果も高い。

次回開催日程

■開 催 日：平成30年5月26日（土）から6月24日（日）
■開催場所：水郷潮来あやめ園・前川・常陸利根川（茨城県潮来市）
■問い合わせ先：
・団 体 名　水郷潮来あやめまつり実行委員会
・住　　所　〒311-2493 茨城県潮来市辻626（潮来市役所産業観光課内）
・電話番号　0299-63-1111
・U R L　http//www.e-tabi.org





開催DATA

自治体名	茨城県潮来市
自治体人口	28,641人 ※H29.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	水郷潮来あやめまつり実行委員会
開催回数	第32回（水郷潮来あやめまつりは第65回）
開催日	毎年5月最終週の土曜日から6月最終週の日曜日
開催場所	水郷潮来あやめ園・前川・常陸利根川（茨城県潮来市）
観客数	82万人

次点

第22回 ふるさとイベント大賞

ふるさと百餅（ひゃっぺい）祭り

昭和58年（1983年）に街の活性化事業の一環として有志数人により発足。その年が岩見沢開基100年を迎えた年であったこと、9月15日が敬老の日であったことと「100歳まで生きる」という願いを込めて100という数字にこだわり、祭りの名前を「ふるさと百餅祭り」と名付けられました。（※平成30年度より「いわみざわ百餅祭り」へ名称変更）

メーンイベントである「百餅大臼餅つき」は、岩見沢百餅囃子の演奏とともに、市内の有志からなる「百餅若衆」という集団による迫力ある餅つきパフォーマンスが行われ、さらに、重さ約200キロの杵を落とすのは当日参加の来場者200人と、見るだけではなく体験もできるイベントです。この餅つきでは「五穀豊穣、商売繁盛、長寿、岩見沢市の発展」を祈念しており、ついた60キロのお餅は1200食分のお汁粉として来場者に振る舞われます。

各開催日の最後に行われる、櫓の上から約2000個の百餅もちをまく「百餅長寿お祝い餅まき」も、世代を問わず大勢の来場客が参加する百餅祭りの人気イベントの一つです。

開催期間中は地元市民を始め、近年は市外、道外の観光客も増えてきており、岩見沢市の象徴として観光にも大きく寄与するイベントの一つです。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年9月15日～17日（予定）
■開催場所：岩見沢市4条西3丁目交差点
■問い合わせ先：
・団体名
一般社団法人岩見沢市観光協会
・住所
〒068-0034　北海道岩見沢市有明町南1番地1
有明交流プラザ1階
・電話番号：0126-22-3470
・MAIL：info@i-kankou.jp
・URL：iwamizawa-kankou.jp/

開催DATA

自治体名	北海道岩見沢市
自治体人口	82,823人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	一般社団法人岩見沢市観光協会
開催回数	34回
開催日	平成28年9月17日（土）～19日（月祝）
開催場所	岩見沢市中心市街地 （1条から5条の栄通り・4条通り・ぷらっとパーク）
観客数	193,000人（3日間合計）

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

市場で朝めし。2016



気仙沼は「海と生きる」まちであり、気仙沼の人たちは海の恵みにより生かされてきました。このイベントは、港町気仙沼の産業の心臓であり、そして街の人々の誇りでもある気仙沼市魚市場を会場に、気仙沼を代表する魚の一つであるさんまの炭火焼きとすり身汁、地元産の新米炊き立てごはんを朝食セットとして販売するイベントです。2016年開催時は1400食を販売し、同時開催の気仙沼市産業まつりとあわせ、気仙沼を代表する食の祭典として市民や観光客に親しまれています。

気仙沼が誇る食文化の発信はもちろんのこと、市民や観光客の交流、にぎわいの創出、そして、海やその海で命をかける漁師への感謝。さらにはスローフードや食育の観点からの朝食の重要さにも着目しています。

気仙沼市は日本初のスローシティとして認定されており、「スローフード」の思想と「食」をまちづくりの核としています。このイベントは食事のなかでも特に「朝食」に着目することで、食事の大事さ、普段の食事こそを大切にしてほしいとの気持ちが込められています。

多忙な毎日、ともすれば簡単に済ませがちな朝食を、地元の食材を使い、徹底的にこだわりごちそうとして提供する。炊き立ての新米ごはんの旨さ。手をかけた家庭料理の美味しさ、普段はなかなか味わえない非日常の贅沢さを改めて感じていただくことで、スローシティの朝を感じてほしいと願っています。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年10月下旬開催予定
■開催場所：気仙沼市魚市場（気仙沼市魚市場前8-25）
■問い合わせ先：
・団体名
市場で朝めし。実行委員会
・住所
〒988-0037 宮城県気仙沼市魚市場前7-13
気仙沼観光コンベンション協会　内
・電話番号：0226-22-4560
・MAIL：k-kanko@k-macs.ne.jp

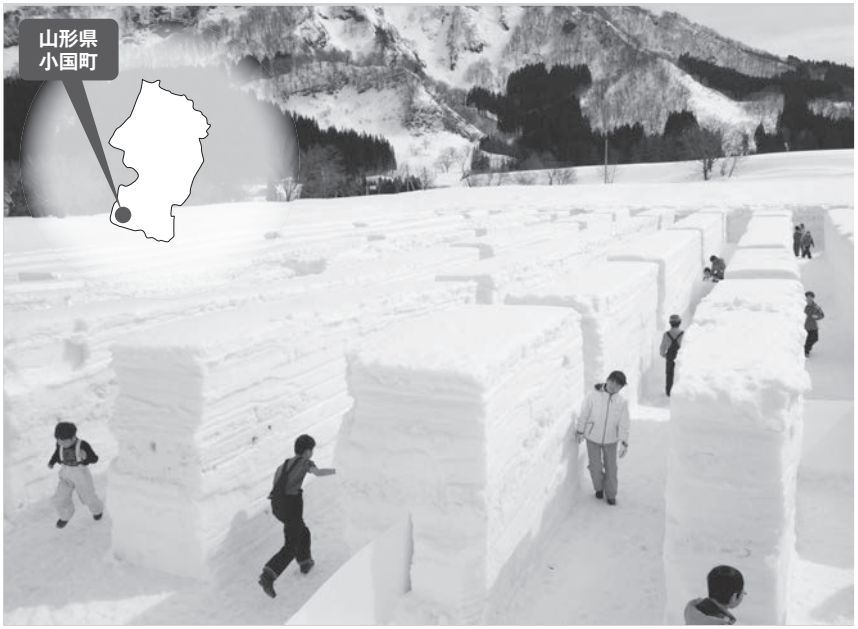
開催DATA

自治体名	宮城県気仙沼市
自治体人口	64,947人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	市場で朝めし。実行委員会
開催回数	4回
開催日	平成28年10月23日（日） 1日のみ
開催場所	気仙沼市魚市場（気仙沼市魚市場前8-25）
観客数	57,000人（同時開催の産業まつりを含む）

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

マタギの里 小玉川雪まつり









最高積雪が4メートルにもおよぶ、全国屈指の豪雪地である山形県小国町小玉川地区。雪まつりは、このありあまる雪を活かして外部との交流を促進し、住民自身が楽しみながら地域の活性化を図るために開催しています。

雪まつりの1日目には、地元のマタギ（古くからのしきたりに従い伝統的な組織狩猟を行う人々）の案内でスノートレッキングが行われます。夜には、地元に伝わる小正月行事を模した火祭りや、参加者と地域住民との交流会が催されます。

2日目は、雪を2メートル以上掘り込んで作った40メートル四方にも及ぶ巨大な雪の迷路や、雪のすべり台が無料開放されます。宝探しやスノーフラッグ、餅まき、スノーモービル体験なども楽しめます。

雪まつりは、同地区の中核的な存在だった小玉川小中学校（平成20年3月閉校）を慕う若い世代が開催した同窓会において発案されました。平成24年1月、その実現に向けて小玉川青年会「イチコロ」を結成。豪雪を楽しみながら地域をPRするイベントとして、同年3月、雪上に巨大な迷路を作り一般開放する「雪の中の大冒険」を開始しました。

平成25年度、同地区の地域団体である小玉川地区自然教育圏整備促進協議会が、閉校舎を拠点とした地域づくり活動の一環として、地域のファンづくりを目指して交流事業に取り組むこととし、その中核として「雪の中の大冒険」を組み込んだ2日間の雪まつりを開始しました。

現在では、地元はもちろん、県外からも多くの親子連れが訪れ、閉校舎に響く子どもたちの歓声が、遅い春を待つ雪国の風物詩になっています。

開催DATA

自治体名	山形県小国町
自治体人口	7,779人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	小玉川地区自然教育圏整備促進協議会
開催回数	4回
開催日	平成29年3月11日～12日
開催場所	山形県小国町大字小玉川地内 （旧小玉川小中学校、樽口峠ほか）
観客数	300人

次回開催日程

■開 催 日：平成31年3月9日～10日（予定）
■開催場所：旧小玉川小中学校　ほか
■問い合わせ先：
・団体名
　小玉川地区自然教育圏整備促進協議会
・住所
　〒999-1522 山形県西置賜郡小国町大字小玉川511番地
・電話番号：0238-64-2008
・URL：https://m.facebook.com/ichikoro2014/

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

吉川八坂祭り

慶長7年（1602年）、吉川宿が分村されたときに最初の神輿が作られたのが八坂祭りのはじまりです。大神輿は嘉永6年（1853年）に2代目として生まれ変わり、現在、芳川神社境内の八坂神社の御神体として祀られています。この大神輿は町内を練り歩くことはありませんが、御神輿殿から出し、その前で各町会ごとにある神輿を各町内に繰り出させるための儀式（神事）として朝祭りを行っています。

吉川八坂祭りは毎年7月中旬に開催され、悪魔・悪疫退散・商売繁盛･五穀豊穣等を祈念するため、朝祭り、神輿渡御、子ども神輿、山車巡行、神輿競演などを行っています。吉川八坂祭りの神輿は頭上高く投げ上げることから暴れ神輿とよばれています。

平成3年からは、いちょう通りに各町会の神輿が一堂に会し神輿競演が行われており、八坂祭りのクライマックスに相応しい盛り上がりを見せています。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年7月14日（土）～ 7月15日（日）
■開催場所：吉川市平沼・栄町地区
■問い合わせ先：
・団体名
吉川八坂祭り実行委員会
・住所
〒342-0058　埼玉県吉川市きよみ野1-1
・電話番号：048-982-9697
・MAIL：syoukou2@city.yoshikawa.saitama.jp

開催DATA

自治体名	埼玉県吉川市
自治体人口	72,382人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	吉川八坂祭り実行委員会
開催回数	不明　※400年以上前から開催されている。
開催日	平成28年7月16日（土）～ 7月17日（日）
開催場所	吉川市平沼・栄町地区
観客数	延べ10,000人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

古利根川流灯まつり



古利根川流灯まつりは、杉戸町と宮代町との境を流れる古利根川を利用して、杉戸町・宮代町の商店会が協力し、「流燈會」として、それぞれの店が工夫を凝らした灯篭を古利根川に浮かべ、店のPRを兼ねたイベントとして行われました。

太平洋戦争により一時中断しましたが、戦後の昭和30年代になってから、打ち上げ花火を主体とした夏祭りとして再開したものの、都市化の波が次第に進み、川の両岸に人家が密集し始め、花火の打ち上げも難しくなり、昭和47年以後再び中断しました。

平成元年頃に「町おこし」の機運が高まり、住民団体等により流灯の復活が試みられ、平成2年に地元商店会の有志が中心となり、「流灯祭」がスタートしました。平成6年からは杉戸町観光協会主催事業になり、名称も「流灯祭」から「古利根川流灯まつり」と変更し、「古利根川流灯まつり実行委員会」が組織されました。

その後は、毎年8月第1週の土曜日･日曜日の開催が定着し、夏の風物詩として「地上に降りた天の川」とたとえられるようになりました。約260基もの畳一畳分の大きな灯ろうが1キロに渡って水面に並ぶ様は流灯まつりでしか見られない光景であり、独創的なものになっています。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年8月上旬
■開催場所：古利根川河畔（古川橋から清地橋までの区間）
■問い合わせ先：
・団体名
杉戸町観光協会
・住所
〒345-0036　埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸1-10-21
・電話番号：0480-32-3719
・URL：http://www.kankou.sugito.info/

開催DATA

自治体名	埼玉県杉戸町
自治体人口	45,432人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	杉戸町観光協会
開催回数	24回
開催日	平成29年8月5日・6日
開催場所	古利根川河畔（古川橋から清地橋までの区間）
観客数	30,000人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

越後・謙信 SAKEまつり2016

越後・謙信SAKEまつりは、上越地域の15蔵元で造られる日本酒をはじめ、120年の歴史を誇るワインやどぶろくなど地元の「SAKE」を一堂に集め、来場者に味わっていただくイベントです。また、酒づくりに欠かせない酵母の世界的権威である「坂口謹一郎博士」の功績など、上越地域の酒づくり文化の紹介も合わせて行っています。

当日は、高田本町商店街を歩行者天国にして、酒の試飲・販売ブースのほか、地場産の食材を用いた飲食ブースも多数設置され、上越地域の「食」も存分に楽しめます。会場内に設けられた特設ステージでは、上杉謙信公の武締式や音楽ライブなどが開催され、おいしいお酒を片手に食べ歩きができ、「食欲の秋」を満喫していただくことができます。

お酒好きの方はもちろん、お酒を飲まれない方、お子様でも十分にお楽しみいただけるイベントが盛りだくさんですので、ぜひ、お越しください。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年10月20日（土）・21日（日）
■開催場所：新潟県上越市高田本町商店街
■問い合わせ先：
・団体名
　越後・謙信SAKEまつり実行委員会
・住所
　〒943-8601　新潟県上越市木田1丁目1番3号
　（事務局：上越市産業観光部産業振興課内）
・電話番号：025-526-5111
・URL：http://kenshinsake.com

開催DATA

自治体名	新潟県上越市
自治体人口	195,200人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	越後・謙信SAKEまつり実行委員会
開催回数	11回
開催日	平成28年10月22日（土）・23日（日）
開催場所	新潟県上越市高田本町商店街
観客数	121,000人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

能登小木港 イカす会 2017

石川県能登町小木地区は、鱈漁、北洋の鮭鱒漁や、沖合イカ釣漁など日本海有数の沖合漁業基地として賑わってきた港町です。しかし、近年、漁業者や漁船の減少、イカの漁場の北上化による水揚高の減少などが一因となって人口の減少・高齢化が進んでいます。また、小木イカをPRしてきたシンボルイベント「イカす会」も平成20年で終了し、町の賑わいも薄れてきました。

こうした課題を解消しようと、平成25年に小木地区の有志が集まり、能登小木港スマイルプロジェクトを結成し、まず小木地区が一つになることを目的にAKB48「恋するフォーチュンクッキー」の動画を作成し、手作りで小規模の「ミニミニイカす会」を開催しました。これが原動力となり、翌26年にイカの町能登小木ならではの体験型イベントとして「能登小木港イカす会」を復活させました。

開催当日、小木港には出港を控えた中型イカ釣漁船が大漁旗を掲げてズラリと並び、県漁業調査船「白山丸」によるイカ釣漁業体験航海、中型イカ釣漁船見学、イカのつかみどりや一本釣り、金沢大によるイカ博士教室、漁師さんによるロープワーク教室など、小木でしかできない体験、また地元の海産物の炭火焼コーナーや模擬店も並べています。ここに来れば、イカを見て、釣って、知って、食べてとイカのことがすべてわかります。また､地元小木小学校には海洋教育「里海科」があり、白山丸漁業体験、イカ博士教室、漁船見学などは里海科の授業の場ともなっています。

小木地区が一丸となってイカす会を開催することで、県内外から多くの人が訪れるイベントになるとともに、「子どもたちが『ここに生まれ育ってよかった』と郷土愛を育み、ここでの体験を通して小木の伝統・文化・産業を子どもたちにつなぐこと」、そして「小木の魅力を体験することによりファンをつくり、交流&定住のきっかけをつくること」を目指しています。









次回開催日程

■開 催 日：平成30年5月27日（日）
■開催場所：石川県鳳珠郡能登町小木地内
石川県漁業協同組合小木支所
■問い合わせ先：
・団体名
能登小木港スマイルプロジェクト実行委員会
・住所
〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町字小木15-30-1（小木公民館内）
・電話番号：0768-74-0194
・MAIL：notoogiikasukai@gmail.com
・URL：https://ogismile.wordpress.com/

開催DATA

自治体名	石川県能登町
自治体人口	17,885人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	能登小木港スマイルプロジェクト実行委員会
開催回数	4回
開催日	平成29年6月4日（日）
開催場所	石川県鳳珠郡能登町小木地内　石川県漁業協同組合小木支所
観客数	9,100人

次点

第22回 ふるさとイベント大賞

和田 de 路地祭



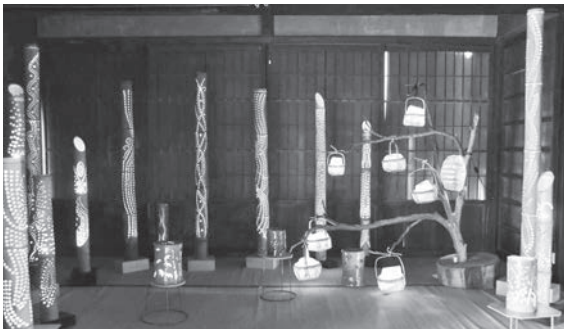
和田de路地祭は、2008年（平成20年）の地域住民（歴史家、陶芸家、公民館長、民宿女将、主婦など）と福井大学との「地域を再発見するマップづくり」「景観探し」を契機に、2009年（平成21年）高浜町和田地区のまちなか全体を会場とし、地域の歴史文化や風景を受け継ぐイベントとして誕生しました。

2日間のイベントでは、空き民宿を利活用した20軒ほどの民宿ギャラリーに、公民館で活動している絵画やパッチワークなどのサークル展示、地域の陶芸家の作品展、町外からのアーティストや手づくり小物などが出店します。また、地元料理を楽しめる民宿かふぇ、掘り出し物が見つかるガレージセール、屋台村、釣りや昔遊びなどの体験と、懐かしくも新しい試みがいっぱいです。和田小学校6年生が半年かけて企画から運営まで行う「楽しさ、ばくはつ、中山てい」は必見です。空き民宿「中山邸」を活用した「カフェ」「路地祭ツアー」「ゲームコーナー」「サンドアート体験」と4つのチームが登場。例年初日の夜は、「長街宴（ちょうがいえん）」と題し、路地を通行止めにして、80メートルの食卓をつくり、持ち寄りの郷土料理を楽しみます。長街宴ステージでは、地元女性が古着物をリメイクした古着物ファッションショー“和田コレクション”が開催され、モデルも地元の子どもからお年寄りが参加し、大いに盛り上がります。

地域の民宿や路地、旧丹後街道などの景観資源を活かし、保育所、小学生、中学生、大学生、女将さん、公民館、主婦グループ、文化推進協議会など、多様な参加により、移住者を巻き込んだコミュニティイベントとして定着しています。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年6月30日・7月1日
■開催場所：福井県大飯郡高浜町和田地区
■問い合わせ先：
・団体名
和田de路地祭実行委員会
・住所
〒919-2225　福井県大飯郡高浜町宮崎86-23-2
（高浜町総合政策課内）
・電話番号：0770-72-7711
・MAIL：seisaku@town.takahama.fukui.jp
※インスタグラム、Facebookあります。#和田de路地祭

開催DATA

自治体名	福井県高浜町
自治体人口	10,558人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	和田de路地祭実行委員会
開催回数	8回
開催日	平成28年9月18日・19日
開催場所	福井県大飯郡高浜町和田地区
観客数	3,800人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

宿場町のクラフトフェア・木曽の手仕事市



平成28年度地域発元気づくり支援金・木曽地方事務所長賞を受賞した「宿場町のクラフトフェア・木曽の手仕事市」は、中山道・福島宿の古い街並みや昭和の雰囲気が残る木曽町福島地区の中心市街地において、全国から募集したクラフト作家129件(第9回)が出展し、手づくり品の展示即売を行っています。クラフトイベント自体は、全国各地で開催されていますが、当イベントのように市街地のまちなかで行なわれるものは例が少なく、宿場町散策とクラフトフェアを同時に楽しめるイベントという点に独自性があります。

市街地で開催することにより、衰退傾向にある同地域の活性化につながっています。また、出展区画として空き店舗・空き家・土蔵・民家の軒先・駐車場等を活用しています。

当初は、例年同時期に開催される「木曽音楽祭」の会場（木曽文化公園文化ホール）付近で開催されていましたが、第6回より会場を市街地に変更し、出展者・来場者数とも飛躍的に増加しました。

実行委員会は住民有志によって構成され、当日は地元住民や学生等のボランティアが多数参加しています。長野県の補助制度(地域発元気づくり支援金)を活用していた時期を経て、現在では木曽町木曽福島地域協議会からの補助と独自財源(出展料等)により運営しています。





次回開催日程

■開 催 日：平成30年8月25日（土）、26日（日）
■開催場所：長野県木曽郡木曽町福島・旧中山道周辺
■問い合わせ先：
・団体名
　木曽の手仕事市実行委員会
・住所
　〒397-0001　長野県木曽郡木曽町福島5084
　（株）まちづくり木曽福島内
・電話番号：0264-22-2766
・MAIL：tmokiso3@mx1.avis.ne.jp
・URL：http://kiso-teshigotoichi.com/

開催DATA

自治体名	長野県木曽郡木曽町
自治体人口	11,414人　※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	木曽の手仕事市実行委員会
開催回数	9回
開催日	平成28年8月27日～28日
開催場所	長野県木曽郡木曽町福島・旧中山道周辺
観客数	10,340人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

高山城 戦国合戦まつり



土岐市高山地区は戦国時代、織田軍と武田軍の領土争いの境界線となり、激しい合戦が繰り広げられ数々のドラマが生まれたところです。しかし近年、日常の生活の中ではふるさとの歴史を顧みることもなく、地場産業（陶器）の低迷、地域の絆の希薄化、若者の都会への流出などによりまちの活力が低下していました。危機を感じた地元の有志により平成23年4月、高山城高山宿史跡保存会が結成され、ふるさとの歴史を掘り起こし次世代へ伝承するとともに、賑わいの創出を図ることを目的として「高山城戦国合戦まつり」を開催することになり、今回で5回目の実施となりました。

まつり当日は好天に恵まれ、子供たちは段ボールを使った手作りの鎧、兜を身にまとい大人の戦国武将とともに約300人に及ぶ武者行列に参加しました。大人たちも、火縄銃鉄砲隊の実演、武将隊の演武、戦国バサラ合戦などを所狭しと繰り広げ、地域一帯に戦国時代の様相を再現しました。また、地元の20代を中心とする若者男女約20人で構成する「土岐高山城戦国武将隊」が本格的な活動を展開するなど、社会人、大学生、高校生、中学生、小学生、幼稚園児、保育園児など多くの若い世代が出演者あるいはボランティアとして積極的に参加する基盤が出来上がっています。



また、回を重ねることにより次第にまつりの知名度が上がり、今回は全日本写真連盟岐阜県本部の「残そう飛山濃水・岐阜新景」フォトコンテストの撮影会場の指定を受け、各地から約70人のカメラ愛好家が集結、戦国合戦まつりの様子にカメラ越しの熱い視線が注がれました。

この高山城戦国合戦まつりによって住民の関心と地域の活力が向上し、子どもたちや若い世代へふるさとの歴史文化を伝承することが実現しました。希薄化した地域の絆の再生と地域コミュニティの再構築、ならびにふるさとへの愛着心の醸成において大きな成果が得られたイベントとなっています。





次回開催日程

■開 催 日：平成30年10月14日（日）
■開催場所：岐阜県土岐市土岐津町高山
南宮神社ならびに高山公園
■問い合わせ先：
・団体名
高山城高山宿史跡保存会
・住所
〒509-5121　岐阜県土岐市土岐津町高山480-1
・電話番号：0572-55-3005
・MAIL：zuikoussk1952@ybb.ne.jp
・URL：https://www.tokitakayama.com/

開催DATA

自治体名	岐阜県土岐市
自治体人口	59,026人　※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	高山城高山宿史跡保存会
開催回数	5回
開催日	平成28年10月2日（日）
開催場所	岐阜県土岐市土岐津町高山　南宮神社ならびに高山公園
観客数	約10,000人

次点

第22回 ふるさとイベント大賞

中山道灯り路

「中山道灯り路」は中山道と近江商人の歴史と文化を守りながら、当時のにぎわいを再現し、近江商人のパワーを今に伝える大きなまちづくりイベントとして、平成29年度で12回目を迎えました。

中山道沿線8つの自治会が創作行灯 約2500基を沿道に飾り、約3キロの街道を美しく彩ります。

当日は、各自治会の神社で拝受した元火(もとび)を、女神役の女性が各自治会につないでいきます。

この元火をつなぐ行列は、先頭にてんびん太鼓がふれ太鼓を賑やかに打ち鳴らしながら、人力車に乗った女神、蔵駕籠に乗った小学生、山車（だし）にはてんびん坊やが乗り、長い行列がパレードを盛り上げます。中山道を来場者が安心して歩けるよう歩行者天国にし、地元特産品やゲームソフトが当たるスタンプラリーを実施。随所で「子どもお楽しみ抽選会」「ダンスショー」「大道芸」「まちかどギャラリー」では「リメイクペインティング展」や「中山道関係古文書展」など老若男女が楽しめるイベントが盛りだくさんです。平成29年度には、江戸の日本橋から123里に位置する「中山道　石塚一里塚」を建立し除幕式を行いました。









次回開催日程

■開 催 日：平成30年9月22日（土）
■開催場所：東近江市五個荘地区中山道沿線
■問い合わせ先：
・団体名
五個荘地区まちづくり協議会
・住所
〒529-1422　滋賀県東近江市五個荘小幡町318
・電話番号：0748-48-7303
・MAIL：go-machikyo@e-omi.ne.jp
・URL：http://go-machikyo.jp/

開催DATA

自治体名	滋賀県東近江市
自治体人口	114,608人 ※平成30年2月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	五個荘地区まちづくり協議会
開催回数	12回
開催日	平成29年9月23日（土）
開催場所	東近江市五個荘地区中山道沿線
観客数	6,000人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

竹の径・かぐやの夕べ

向日市の北西部にある向日丘陵の竹林は、良質なたけのこの産地として全国に知られています。その中に続く1.8キロの散策道「竹の径」は、竹穂垣など8種類の竹垣が整然と連なり、竹林浴の地として親しまれています。

「竹の径・かぐやの夕べ」は、「竹の径」を竹筒に水ろうそくを浮かべた約4500本の竹行灯で彩るライトアップイベントです。

向日丘陵の竹林は、たけのこの産地でしたが、放置竹林の増加が地域の課題でした。そこで、放置竹林の竹を伐採し、竹筒を製作することで、放置竹林を整備するとともに、地域の魅力づくりのため、このイベントは始まりました。

現在では、約4500本の竹行灯だけでなく、剪画行灯や手づくり行灯、市民による竹の作品などで、夕闇の竹林を幻想的に彩っています。また、演奏会や飲食ブースを設け、地域のにぎわい創出につながっています。

イベント運営には、ボランティアや市内外の団体に協力いただき、竹の伐採や竹行灯の設置を行っています。また、作品を展示するエリアを設ける等、多くの市民に協力をいただくことで郷土愛の醸成を図る事業となっています。

第15回は手づくり郷土賞大賞部門受賞を記念し、初めて2日間開催し、多くの方にご来場いただきました。

竹行灯による幽玄かつ神秘的な雰囲気をお楽しみください。









次回開催日程

■開 催 日：平成30年10月中旬
■開催場所：竹の径、第6向陽小学校周辺及び
京都市洛西竹林公園
■問い合わせ先：
・団体名
向日市観光協会
・住所
〒617-0002　京都府向日市寺戸町中野20
・電話番号：075-963-6504
・MAIL：muko-kankou@jeans.ocn.ne.jp
・URL：http://www.muko-kankou.jp/

開催DATA

自治体名	京都府向日市
自治体人口	55,728人　※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	向日市観光協会
開催回数	15回
開催日	平成28年10月15日（土）・16日（日）
開催場所	竹の径、第6向陽小学校周辺及び京都市洛西竹林公園
観客数	15,000人

次点

第22回 ふるさとイベント大賞

城東区SARUGAKU祭 ～こどももおとなも全員集合!!～

猿楽は、奈良時代に唐から伝来した現在の能や狂言の原型であり、元々は曲芸・歌踊り・ものまね・手品等、庶民に愛された芸能でした。南北朝から室町時代には、城東区北部辺りにあった榎並荘に「榎並猿楽」が座を構え、大変活躍していました。その歴史に因み、現代に「榎並猿楽」を甦らせるべく城東区内にある23の各種団体で運営委員会を組織し、「城東区SARUGAKU祭」を開催しています。

一般公募による踊り（ダンス、民謡、ヒップホップ、フラダンスほか）、歌（バンド、ソロ）、伝統芸能（能楽、だんじり囃子ほか）等、日ごろの練習成果を披露しています。老人会（昔遊び体験）や図書館（絵本読み聞かせ、紙芝居）、生涯学習（クリスマスカード制作等の体験コーナー）など多くの団体も積極的に協力しています。また、ポスター、チラシのデザインは大阪産業大学付属中学・高校の生徒が担当し、当日スタッフとしても協力しています。お祭りを盛り上げる出店（飲食、ゲーム等）には青少年指導員や青少年福祉委員等の地域団体が協力し、障がい者団体主催のお祭り「ピアフェスタ」と一緒に開催するなど、区民が一体となって活動しています。

区民の誰もが参加し、楽しめる歌や踊り等を幅広く取り入れた現代的な芸能文化の祭りを目指し、名物・特産品・ランドマークのない城東区で子ども達がお国自慢できるお祭りをコーディネートしています。また、イメージキャラクターを一般公募し、「ゆめのや猿之介」と命名しました。

区役所や各種団体を巻き込みながら、子どもと大人が一緒にボランティアできる場づくりを提供するとともに、最終的には地元の子ども達が中心となり、幼児から高齢者までが一体となって楽しむ城東区の文化祭にしていきたいです。









次回開催日程

■開 催 日：平成30年11月18日（日）
■開催場所：蒲生公園（大阪市城東区中央3-5）一帯
■問い合わせ先：
・団体名
城東区ゆめ ～まち～ 未来会議
・住所
〒536-8510　大阪府大阪市城東区中央3丁目5番45号
城東区役所市民協働課内
・電話番号：06-6930-9041
・MAIL：tq0002@city.osaka.lg.jp

開催DATA

自治体名	大阪市城東区
自治体人口	169,194人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	城東区ゆめ ～まち～ 未来会議
開催回数	5回
開催日	平成28年11月20日（日）
開催場所	蒲生公園（大阪市城東区中央3-5）一帯
観客数	4,500人

次点

第22回 ふるさとイベント大賞

オータムフェスティバル in 龍野

会場は、JR本竜野駅からレトロな龍野地区の寺院や町家等約150会場で展示やコンサート、物品や飲食の出品等、約250のイベントを開催し、保育園児から高校生、市民の発表の場や多くの方々の交流の場で、たつの市最大のイベントです。

目的は、「自然と町並みを保存し、活用する」「龍野地区の建物、文化、人物、グループ等の財産を生かす」「JR姫新線の利用客増と揖保川を挟んだ東西の町を結ぶ」「青少年育成と心のふるさとづくり、ふれあい交流の場づくり」の4つです。

昭和60年に龍野市は、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定について住民同意が得られませんでした。平成11年に、同志6人により「龍野伝建研究会」が発足、先人達の活動を礎に、「活用しながら保存する」ため、伝統的建造物である寺院でのコンサートやギャラリーでの町並写真展に町探訪等、参加型イベントを行いました。平成15年、この伝建研究会と龍野地区まちづくり協議会が連携し、兵庫県パワーアップ事業の助成と地域住民の協力により、オータムフェスティバルin龍野を約30カ所で50イベントを開催した結果、約3万人の参加があり好評でした。以後14年間継続し、現在では、150会場250イベントを3日間で実施し、遠くは横浜、名古屋や広島からも観光客が訪れ、約11万5000人が来場します。

さらに、当イベント開催以降、龍野地区では多様なイベントが開催され、それぞれが町並みを基礎に魅力ある龍野を発信し続けた結果、約40年間、店が開店しなかった龍野地区に、この15年間で40店舗以上の店が開業しています。

良い自然、いい仕事、良き習慣があり、生活技術の学ぶ場がある。友達がおり、自然と産業が繋がり、常に新しいものを作り出す力がある。これからも継続して龍野の魅力を発信していきたいと思います。









次回開催日程

■開 催 日：平成30年11月23日（金・祝）～25日（日）
■開催場所：JR本竜野駅からレトロな龍野地区
■問い合わせ先：
・団体名
オータムフェスティバルin龍野実行委員会
・住所
〒679-4179　兵庫県たつの市龍野町上霞城101番地4
龍野地区県民交流広場内
・電話番号：090-8168-8962
・MAIL：yasunari_nagasaka@city.tatsuno.lg.jp
・URL：http://www.tatsuno-af.jp/

開催DATA

自治体名	兵庫県たつの市
自治体人口	77,499人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	オータムフェスティバルin龍野実行員会
開催回数	14回
開催日	平成28年11月18日（金）～20日（日）
開催場所	JR本竜野駅からレトロな龍野地区（龍野小学校区）
観客数	115,000人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

古都飛鳥文化祭

村民・帰郷者・来村者が「心の故郷に帰ってきた」と感じ、みんなが楽しめる明日香の秋祭りを創ろうと平成27年より「古都飛鳥文化祭」を開始しました。

イベントではなく「祭り」であることにこだわり、みんなで一緒に創ることを前提に【聖性】【非日常空間】【周期性】【集団関与】等、「祭り」の本質を重視し、「100年続く明日香の祭りをみんなで創ろう!」を合言葉として、関わりを持ち参加してくれる人や団体の輪を広げながら長期的に継続することを目標としています。舞台演出は明日香村を拠点に世界で活躍する「和太鼓倭」がプロデュースし、村の伝承芸能・村内学校の郷土学習である「飛鳥学」の成果発表も行うことで村内・外に改めて飛鳥文化の過去・現代・未来を発信する機会としています。古くより伝わる明日香村仏教団による「古墳祭」を祭りの中に取り入れ、神事の際には来場者全てが村の象徴とも言える「石舞台古墳」に向き直り、慰霊と先人への感謝の気持ちをこめて手を合わせます。夕刻からは和太鼓倭による奉納ライブが行われ、ライブの後は来場者も交え村内を山車・御輿での練り歩きが行われます。村内・村外・老若男女の枠を越えて共に歌を唄い、山車をひけば心がひとつになり故郷に帰ってきたような懐かしさを感じます。

帰還後は歓声とともに秋の夜空に花火があがり飛鳥の秋を彩ります。









次回開催日程

■開 催 日：平成30年10月20日（土）・21日（日）
■開催場所：奈良県高市郡明日香村内
　　国営飛鳥歴史公園石舞台地区
■問い合わせ先：
・団体名：明日香村観光交流活性化事業実行委員会
・住所：〒634-0111　奈良県高市郡明日香村岡1220
・電話番号：0744-54-4577
・MAIL：info@asukadeasobo.jp
・URL：https://asukamura.com

開催DATA

自治体名	奈良県明日香村
自治体人口	5,638人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	明日香村観光交流活性化事業実行委員会
開催回数	年に1度開催。平成28年は第2回目の実施。平成29年も実施済
開催日	平成28年10月15日（土）・16日（日）
開催場所	国営飛鳥歴史公園石舞台地区あすか風舞台・芝生広場 他村内パレード
観客数	27,000人（2日間計）

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

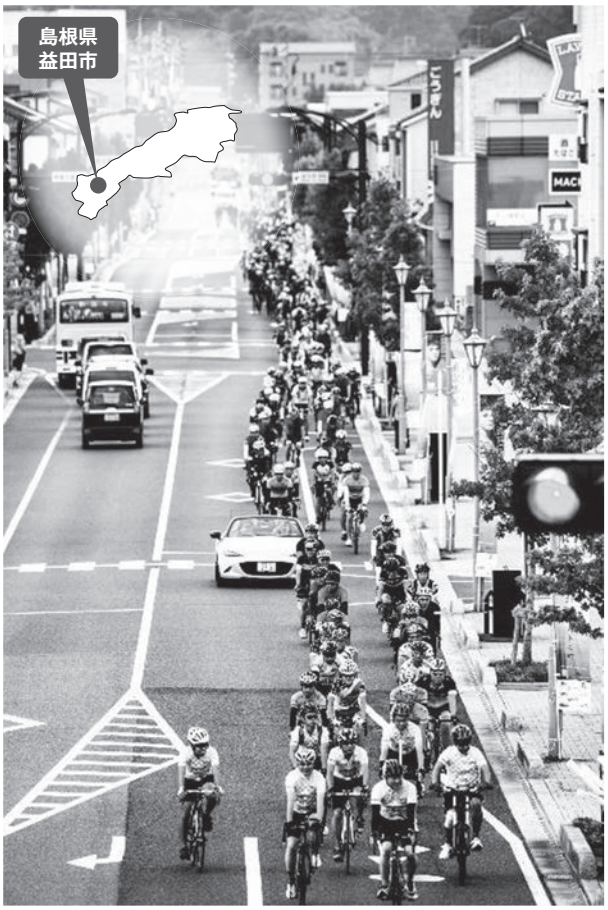
2016 第5回益田 INAKA ライド

益田市は美しい日本海、水質日本一にも輝いた清流高津川、緑豊かな山々に囲まれており、国道を除く一般道路は交通量が比較的少ないため、サイクリングを楽しむには適した環境を持っています。近年、首都圏を中心に自転車に乗る人が急増し、スポーツサイクリストは全国に300万人いると言われています。これらの人々に対して益田市の豊かな自然と自転車環境、そして地元の食材を満喫していただき、自転車の素晴らしさを再認識していただくこと、そして、益田市の地名を全国へ発信することによる地域活性化（町おこし）の一つの手段として、2012年から自転車で田舎町を海から山へと自然を満喫しながら優雅にサイクリングを楽しむイベント「益田INAKAライド」を開催しています。

このイベントの特徴は、①日本初の現役空港の滑走路を走行できること②100ZERO（100km走っても信号ゼロのコース）③地元食材を使った充実したエイドステーション、の3点です。これらの特徴は、参加者の98%（NPOアンケート集計による）が満足され、また来年も参加したいと言われるほど好評をいただいており、参加申込者も年々増えてきています。

コースは、市のシンボル的な施設島根県芸術文化センター「グラントワ」をスタートゴールとし、60キロ、120キロ、160キロの3つを設定。160キロはスピード重視の「スーパーうさぎ」、ほどほどスピード派の「うさぎ」、120キロはほどほどスピードの「うさぎ」、途中の風景を楽しみながらまったり走る「かめ」の4種類。そして、匹見峡温泉までの片道コースの60キロはゴール後、温泉に入浴し、帰りはバスでスタート地点まで送迎するコースで、自転車はトラックでスタート地点まで搬送しています。

第5回の参加申込者は566人。台風の接近が懸念される中での開催となりましたが、当日も約500人がイベントに参加。ゲストライダーにはパラサイクリング競技「ハンドバイク」の選手末吉政巳さんをお迎えし、参加者と一緒に120キロを走っていただきました。









次回開催日程

■開 催 日：平成30年9月上旬
■開催場所：益田市内の一般公道
■問い合わせ先：
・団体名
特定非営利活動法人　益田市・町おこしの会
・住所
〒698-0047　島根県益田市かもしま西町5番地13
アベニュー２　204
・電話番号：0856-22-2558
・MAIL：office@masuda-genki.or.jp
・URL：www.masuda-genki.or.jp/about/index.html

開催DATA

自治体名	島根県益田市
自治体人口	47,521人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	特定非営利活動法人　益田市・町おこしの会
開催回数	5回
開催日	平成28年9月4日（日）
開催場所	益田市内の一般公道 （島根県芸術文化センター「グラントワ」スタート・ゴール）
観客数	800人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

矢掛の宿場まつり大名行列

江戸時代に宿場町として栄え、参勤交代の際には大名などの宿として利用された本陣と脇本陣が現存する矢掛商店街を中心に、「矢掛の宿場まつり大名行列」を開催しています。江戸時代の参勤交代をテーマとし、大名行列を再現するとともに、それを盛り上げるアトラクションを行うなどの内容になっており、町内外から多くの観光客の来訪があります。

備中西商工会矢掛内に実行委員会を設立し、地域住民や町内各種団体が協力し、また、地元の矢掛高等学校も積極的に参画するなど、町全体のイベントとなっています。 また、町内の企業に研修に訪れている外国人研修生にも大名行列に参加していただき、地域の国際交流にも対応しています。行列は単に衣装をつけ街を練り歩くのではなく、それぞれの配役の見せ場をつくり、行列の厳かさを演出しています。また、大名行列のみならず、他に行列を演出するアトラクションを用意しています。



宿場町矢掛として江戸時代の大名行列を再現するイベントは昭和49年から商工会を中心として地元歴史家などにより研究検討されており、昭和51年の台風による大災害をきっかけとして新行事「大名行列」が町の活力復興のために始められました。以来、40年あまり継続して行われ、今年で43回目を迎えます。また、宿場まつりのイベントとして、小学生による飛脚駅伝大会、地元物産の販売や太鼓の演奏、お茶席など地域の趣向を凝らしています。

平成29年4月には、アメリカ合衆国サンフランシスコにおいて、サンフランシスコ桜祭りの催しとして招待を受け、町内外より約50人が渡米、現地の方々と協力し、総勢80人の大名行列を披露しました。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年11月11日（日）
■開催場所：矢掛商店街
■問い合わせ先：
・団体名
矢掛の宿場まつり大名行列実行委員会
・住所
〒714-1202　岡山県小田郡矢掛町小林163-2
・電話番号：0866-82-0559
・MAIL：biccyuunishi@okasci.or.jp

開催DATA

自治体名	岡山県小田郡矢掛町
自治体人口	14,443人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	矢掛の宿場まつり大名行列実行委員会
開催回数	42回
開催日	毎年　11月第2日曜日
開催場所	矢掛商店街
観客数	30,000人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

餅ひろい世界選手権

「餅は買うものにあらず、拾うものなり」という山口県独特な「餅まき」文化にスポーツ性、エンターテインメント性を持たせて、都市と農村との交流を促進し、国際交流と併せて地域促進を目指すことから始まりました。

自社生産した餅米を地元で餅へ加工し、小学生・中学生以上女性・中学生以上男性に分け、拾った餅の重量を競います。服装はヘルメット、軍手、肥料袋で作ったエプロンで統一。軽トラックの上から四方八方へ餅をまくため、足、腰の強さ、そして場所取りで勝敗が決まります。賞品は中学生以上男女いずれも、1位あとう和牛、2位阿東米を用意。会員の協力も得て、餅に貼っているシールで特産品もプレゼント。阿東の特産品及び店舗をPRする目的も兼ねています。

当初は130人の参加でしたが、人気が徐々に高まり、募集人数も250人へと拡大。締め切りを待たず、募集人数に達するようになりました。現在では外国人学生を招待し、馴染みのない文化に戸惑いながらも楽しんで競技へ参加しています。

この選手権には毎年40～50人の地元ボランティアスタッフの協力で成り立っています。ボランティアの負担を抑えるためにも人員の確保は毎年大きな課題ですが、過去の経験を踏まえて工夫と努力で取り組んでいます。









次回開催日程

■開　催　日：平成30年11月23日（祝）
■開催場所：阿東ふるさと交流促進センター
■問い合わせ先：
・団体名
　NPOあとう
・住所
　〒759-1512　山口県山口市阿東徳佐中3628
・電話番号：083-956-2526
・MAIL：npo-ato@c-able.ne.jp

開催DATA

自治体名	山口県山口市
自治体人口	196,452人　※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	NPOあとう
開催回数	7回
開催日	平成29年11月23日（祝）
開催場所	阿東ふるさと交流促進センター
観客数	300人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

第21回 宇佐大鍋まつり

「宇佐大鍋まつり」は今回で21回目を迎える、土佐市のゴールデンウィークの恒例行事です。当イベントは宇佐町内会連合会、土佐市商工会宇佐支部、JA土佐市宇佐青壮年部が主体となり、地元ボランティアグループや多くの市民が一体となって開催するイベントであり、漁師町ならではの賑わいある祭りです。四国最大級、直径2メートルの大鍋で炊きあげる「うるめいわしのつみれ汁」やその他地場産品の販売を行っています。また、太鼓演奏や各種踊り、住民参加の早食い競争など、楽しいステージショーを実施しています。

宇佐町と横波三里の豊かな自然と産物を紹介し、人々の交流を通じて地域の活性化を図るため、自然の中でゆっくりと地場産品を楽しみ、のんびりと過ごし遊べるまつりとなっています。









次回開催日程

■開 催 日：平成30年5月3日（木）
■開催場所：宇佐しおかぜ公園
■問い合わせ先：
・団体名
宇佐大鍋まつり実行委員会
・住所
〒781-1161　高知県土佐市宇佐町宇佐1781-2
・電話番号：090-2896-0379（濱田）
・MAIL：mirai@city.tosa.lg.jp
（土佐市役所 未来づくり課）

開催DATA

自治体名	高知県土佐市
自治体人口	27,494人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	第21回宇佐大鍋まつり実行委員会
開催回数	21回
開催日	平成29年5月3日（水）午前10時～午後3時
開催場所	宇佐しおかぜ公園
観客数	4,000人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

2016国際渓流滝登りinななやま

七山（ななやま）は、佐賀県唐津市の東北部に位置し、県内で最も自然豊かな地域のひとつです。日本の滝百選に選ばれた「観音の滝」があり、その周辺には大小8つの滝と淵（ふち）が連なります。川の両脇には緑豊かな山々に挟まれており、美しい渓谷となっています。

本イベントは、その渓谷の中で、滝に登ったり淵を泳いだりして、ゴールを目指す、全国でも珍しい、豪快なアドベンチャースポーツです。

コースは運動公園から観音の滝までの往復5キロで、その間1.5キロが川の中です。上流へ向かって急流や岩場を歩き、淵を泳ぎ、滝を登ります。コースの中に10カ所のチェックポイントがあり、七山特産の「トマト」や「天然水」を用意しています。早さを競うタイムレースではなく、基準タイム（150分）に近いチームや個人を表彰します。時計を持ち込んではいけないルールにしており、時間を忘れて自然との触れ合いを楽しむことができます。

1987年から開催し、2016年で27回を数えます（3回は悪天候で中止）。参加者の満足度が高く、リピーターが多いです。“滝登り”という他のイベントではできないユニークな体験は、国内はもちろん、海外のメディアでも紹介されました。それにより、県外や外国人の参加者が増え、七山地域の方が多種多様な人々と交流する機会にもなっています。

全身で渓谷の自然を体感することで、参加者に環境保全の意識を高めてもらうとともに、地域コミュニティーの醸成、交流人口増加、国際理解、七山のPRなどの場にもなっており、地域活性化へつながっています。

また、学校ぐるみで中学生がスタッフとして参加し、こうした地域全体の取り組みが継続の力となっています。











次回開催日程

■開 催 日：平成30年7月29日（日）
■開催場所：佐賀県唐津市七山滝川
■問い合わせ先：
・団体名
滝登り実行委員会
・住所
〒847-1107　佐賀県唐津市七山藤川2270-1
キコリななやま内
・電話番号：事務局電話は6月より開設します。
実行委員長　090-9579-5871
・MAIL：tk_iwamura@yahoo.co.jp

開催DATA

自治体名	佐賀県唐津市
自治体人口	123,775人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	滝登り実行委員会
開催回数	27回
開催日	平成28年7月31日（日）
開催場所	佐賀県唐津市七山滝川
観客数	4,500人

次点

第22回
ふるさとイベント大賞

五島の灯まつり

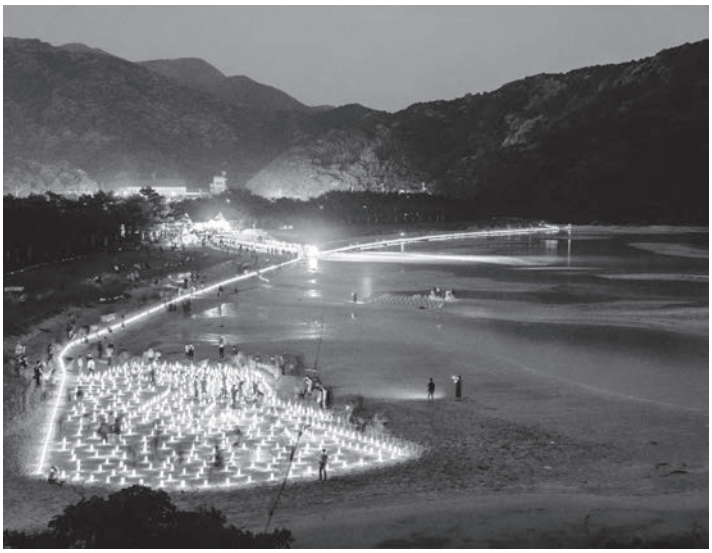
平成25年12月13日、五島列島を形成する新上五島町と五島市により5月10日を「五島の日」とすることが制定されました。それをきっかけに、「5月10日は五島の日」を合言葉に、五島を全国区に広めたいという思いから行政と民間が協働して実行委員会を立ち上げ、開催したイベントです。

このイベントを島を代表するものとし、地域活性化に繋げるために、既存のイベントとは一線を画した五島独自の素材でPRすることに主眼を置き、五島の「日」＝「灯」とかけて、メーンイベントにはランタンを使用、光や火を使い「五島を灯す」ことで幻想的な空間を演出しました。

メーンイベントとなったシーランタンは、「五島の日」にちなんで1510個が用意され、島内の小中学校、高校の児童・生徒をはじめ、さまざまな人に願い事や祈りを書いてもらい、会場となった蛤浜海水浴場の海岸線を約200メートルにわたって彩りました。カトリック教会や寺社仏閣が多い本町は、すでに「祈りの島」として対外的にPRしていることもあり、地域の歴史・文化を背景としたイベント実施ができたと感じています。

またイベントでは、「5メートル10センチの五島うどん早食い大会」や地元のダンスチームによる演舞など、510=五島にこだわったイベントにすることで、島民に親しまれ、島外に向けても「5月10日は五島の日」として記憶に残る参加型のイベントとなりました。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年8月中旬
■開催場所：蛤浜海水浴場
■問い合わせ先：
・団体名
五島の灯まつり実行委員会（椿太郎とやせガラスの会）
・住所
〒857-4402　長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10
・電話番号：0959-43-1188
・MAIL：flat.field@oregano.ocn.ne.jp
・URL：http://510-day.com/

開催DATA

自治体名	長崎県新上五島町
自治体人口	19,711人　※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	五島の日啓発活動実行委員会
開催回数	1回
開催日	平成29年5月6日
開催場所	蛤浜海水浴場
観客数	3,000人

次点

第22回 ふるさとイベント大賞

職人フェスティバル

社会の変化するスピードが速く、またグローバルな時代の中で、将来・未来を背負っていく子どもたちの環境を見ると、室内でのゲーム等で過ごす時間が増えているのが現状です。

そんな子どもたちに、日本が培ってきた「職人文化」や「ものづくり」等を体験して「面白さ、難しさ」を知ってもらい、今までと違う世界を見て何かを感じてもらうことにより、将来の夢に役立ててほしい、という思いでイベントを実施しています。また、中心市街地商店街のアーケードで開催することで、空き店舗が増え、来客者が減少した商店街の活性化を図る目的もあります。

イベントは、市内及び近郊の小学生（事前応募による800人）を対象に、①職人ブース約60店舗を商店街アーケードに配置し、ものづくり体験②ステージイベント（子ども太鼓、職人技の披露）③東日本大震災以降、親交を深めている東北福島物産展④消防士、警察官体験コーナー⑤商店街店舗による販売コーナー、お買い物スタンプラリー、抽選会などを実施しています。

このイベントを通じて、子どもの頃から「ものづくり」の興味がわくことで、将来、世界で通用する企業が育ち、高い技能者もふえ、「ものづくり大国日本」を支えることができると確信しています。







次回開催日程

■開 催 日：平成30年7月15日（日）
■開催場所：中津市　日ノ出町商店街・
　　新博多町商店街　アーケード
■問い合わせ先：
・団体名
　ステージ中津491
・住所
　〒871-0066　大分県中津市鷹匠町901番地1
・電話番号：（0979）23-1820
・MAIL：ebf000355440@sat.bbiq.jp

開催DATA

自治体名	大分県中津市
自治体人口	84,618人 ※平成29年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	ステージ中津491
開催回数	8回
開催日	平成28年7月17日（日）
開催場所	中津市　日ノ出町商店街・新博多町商店街　アーケード
観客数	2,650人

地域づくり5月号 特集編（通巻347号） 平成29年度ふるさとイベント大賞 平成30年5月1日 一般財団法人 地域活性化センター発行

宝くじは、みなさまの豊かな暮らしに役立っています。



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や
災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちで、みなさまの暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
http://jla-takarakuji.or.jp/